

# 年 報 18

平成13年度

2002. 11

山梨県埋蔵文化財センター

# 年 報 18

平成 13 年 度

2002. 11

山梨県埋蔵文化財センター

## 序

山梨県埋蔵文化財センターは、1982年(昭和57年)の発足以来、本年度で20年目を迎えました。当初、14人で始まった当センターも現在は、40人ほどの職員を抱えるようになり、この20年間、多くの山梨の遺跡を調査し、貴重な発見をもとにまとめた調査報告書は200集を超えるようになってまいりました。

発足以来山梨の埋蔵文化財の保護に尽力してきた当センターですが、ここ数年間の全国的な公共事業・民間事業等の工事に伴う事前発掘調査の減少は、本県も同様であり、当センターの発掘事業にも多大な影響を与えております。しかし、この年報18を見ていただければわかるとおり、本年度の当センターの発掘件数は昨年度に比べ増加しております。本年度の本調査件数は14件、試掘調査ほかにいたっては、21件の発掘調査を行いました。従来に比べて調査期間は短くなってきており、調査面積も小さくなってきておりますが、山梨県内にはまだ当センターの保護の手を待ち望んでいる遺跡が数多く存在していると思われれます。また、それを証明するかのように今年度も多くの貴重な資料を発見することができました。

長坂町の原町農業高校前遺跡では、主に縄文時代中期の堅穴住居跡が発見され、約80点ほどの土偶が発見されました。ハッ岳南麓地域の縄文時代中期の集落跡では、非常に多くの土偶が出土しています。甲府市の甲府城下町遺跡では大量の陶磁器片が出土し、また、井戸跡が6基発見され、当時の水の重要度が窺われる発見です。同じく甲府市の道々芽木遺跡では、白鳳期～奈良時代の「布目瓦(平瓦・丸瓦)」が発見され、周辺に存在していた「川田瓦窯跡」や「土器瓦窯跡」で焼成されたものである可能性が高い資料であり、本遺跡と周辺の遺跡(生産遺跡)との関係を究明していく上で貴重な資料となります。玉穂町初の本格的調査となった北河原遺跡では、中世的な要素を持つ人骨を伴う3基の墓塚が発見され、現在は消滅した寺院や不明な寺院を考える上で重要な資料となることでしょう。平成10年度に続く第2次調査となった秋山村の金山金山遺跡では、新たに3つの遺構面が確認され、明治初頭の陶磁器片や江戸期に遡る磁器片などが検出されています。鯉沢町の鯉沢河岸跡では、江戸時代の鯉沢河岸の中心であった「御蔵台」にかかわる遺構やそれに通じる道路跡などが発見されています。このような発見をもとにより新たな発見ができることを期待しています。

また、昨年度に発足し、2年目を迎えた資料普及課では報告書作成事業に加え、平成14年度より小中学校で本格的実施となる「総合的な学習の時間」に対応すべく普及事業を行いました。本年度は昨年度に引き続き、当センターの職員が依頼のあった学校(主に小中学校)に向向いて、教職員の補助をしながら授業を行いました。授業の内容は、主に「土器作り」や「火おこし体験」などです。県内小中学校の認知度もあがったようであり、依頼も多く、時勢に沿った事業であると感じました。そして、埋蔵文化財を学習に役立ててもらうためにワークシートを作成し、より児童・生徒に取り組みやすい環境を提供するために努力をしております。

以上のように設立20周年を迎えた当センターは、発足当時に比べ多岐にわたる事業を行わなければならない状況になってきておりますが、これからも、埋蔵文化財の調査研究を通じて山梨県の発展のために努力を惜しまない覚悟であります。今後ともなお一層のご理解とご支援をいただきたく、お願いがたがた刊行のご挨拶といたします。

2002年11月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚 初重

# 目 次

## I 2001年度の事業概要

1	発掘調査	1
2	整理作業	1
3	資料普及課の事業	2
4	収蔵資料の貸し出し及び掲載許可	4
5	所内研究グループ	10
6	第14回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	10
7	山梨の遺跡展'2001	11
8	遺跡調査発表会	12
9	所内研修	12
10	寄贈・購入図書	13

## II 各遺跡の発掘調査概要

1	諏沢河岸跡	14
2	野牛島大塚遺跡	18
3	道々舟木遺跡	19
4	五反田遺跡	21
5	原山遺跡	22
6	北河原遺跡	23
7	寺部村附第9・中西第3遺跡	25
8	酒香場遺跡	26
9	金山金山遺跡	27
10	甲府城下町遺跡	29
11	原町農業高校前遺跡	31
12	国指定史跡饒子塚古墳附丸山塚古墳	33
13	甲府城跡	34
14	埋蔵銭貨出土遺跡詳細分布調査(信虎誕生屋敷跡)	36
15	八ヶ岳東南麓遺跡群ほか遺跡分布調査(試掘調査)など	38

## III 県内の概況

1	発掘調査	47
2	発掘調査の成果と保存整備事業	47
3	調査体制	47
	山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移(グラフ)・2001年度発掘調査一覧表	48



2001年度 発掘調査位置図

1. 本書は、2001年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
2. 本書の編集は窪田昌彦、正木季洋が行った。
3. 今年度の発掘調査一覧表および資料の記載は、3月末日現在で集計したものである。
4. 第Ⅱ章各遺跡の発掘調査概要における発掘調査面積の( )内は、調査対象面積である。
5. 左記の地図は、2001年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、右ページの発掘調査の表に対応している。

## 職員組織

所長	大塚初重	総務課長	三井一
次長	望月英利	主任	浅川美和
総務課長(兼)	望月英利	主任	矢崎和子
調査研究課長	坂本美大	主任	畑野博之
資料普及課長	小野正文	業務員	久保川一三

調査研究課第1担当		調査研究課第2担当	
副主幹・文化財主事	米田明訓	主査・文化財主事	保坂康夫
主査・文化財主事	大柴鉄哉	副主査・文化財主事	小林稔
副主査・文化財主事	浅川一郎	副主査・文化財主事	小林敏徳
主任・文化財主事	窪田昌彦	主任・文化財主事	村石真澄
主任・文化財主事	小林公治	主任・文化財主事	田口明子
主任・文化財主事	三田村美彦	文化財主事	野代恵子
非常勤嘱託	正木季洋		

調査研究課第3担当		調査研究課第4担当	
主査・文化財主事	小林広和	副主査・文化財主事	高野玄明
主査・文化財主事	三森鉄治	主査・文化財主事	望月郁也
主任・文化財主事	勝俣透	副主査・文化財主事	斎藤伸樹
主任・文化財主事	笠原みゆき	副主査・文化財主事	吉岡弘樹
文化財主事	網倉邦生	主任・文化財主事	深沢容子
非常勤嘱託	楠間美季江	主任・文化財主事	宮里学

資料普及課第1担当		資料普及課第2担当	
副主幹・文化財主事	長沢宏昌	副主幹・文化財主事	出月洋文
主任・文化財主事	森原明廣	主任・文化財主事	今福利恵
主任・文化財主事	保坂和博	文化財主事	依田幸浩
文化財主事	小林孝子	非常勤嘱託	宮久保真紀
臨時職員	須長愛子		

# I 2001年度の事業概要

## 1. 発掘調査

今年度は13遺跡の発掘調査と、20事業に関わる試掘調査、1つの分布調査を行った。発掘調査の原因は、道路建設7、公園整備1、建物建設2、史跡整備1となる。これらの調査は4月上旬から3月下旬まで行われ、主として12月以降を基礎的整理期間とした。各遺跡の概要は、第II章で述べることとする。

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	織沢河岸跡A・B	2	野牛島大塚遺跡
3	道々芽木遺跡	4	五反田遺跡
5	原山遺跡	6	北河原遺跡
7	寺部村附第9・中西第3遺跡	8	酒吞場遺跡
9	金山金山遺跡	10	甲府城下町遺跡
11	原町農業高校前遺跡	12	国指定史跡鏡子塚古墳附丸山塚古墳
13	甲府城跡	14	埋蔵銭貨出土遺跡詳細分布調査

### ・八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査ほか

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
15-01	県営千塚西団地解体工事に伴う試掘調査	15-02	日本道路公団中環自動車通車増設インターチェンジ建設に伴う試掘調査
15-03	県営千塚西団地解体工事に伴う試掘調査	15-04	財務省関東財務局国家公務員宿舎改築工事に伴う試掘調査
15-05	国土交通省甲府バイパス東付道路工事及び用水路整備工事に伴う試掘調査	15-06	山梨県土地開発公社宅地造成工事に伴う試掘調査
15-07	山梨県桂川ウェルネスパーク道路工事に伴う試掘調査	15-08	国土交通省甲府バイパス建設工事に伴う試掘調査
15-09	国土交通省大月バイパス建設工事に伴う試掘調査	15-10	県立垂崎工業高校校舎改築工事に伴う試掘調査
15-11	県営塩部第2団地建設工事に伴う試掘調査	15-12	山梨新環状線・西関東道路工事に伴う試掘調査
15-13	山梨新環状線・西関東道路工事に伴う試掘調査	15-14	桂川ウェルネスパーク建設事業に伴う試掘調査
15-15	塩山東バイパス道路工事に伴う試掘調査	15-16	山梨新環状線・西関東道路工事に伴う試掘調査
15-17	桂川下水道発着基地建設事業に伴う試掘調査	15-18	塩山東バイパス建設工事に伴う試掘調査
15-19	山梨県利根川河川改修工事に伴う試掘調査	15-20	桂川ウェルネスパーク建設事業に伴う試掘調査
15-21	県庁舎改築に伴う甲府城跡築屋曲輪の調査		

## 2. 整理作業

整理作業は、主に本年度調査した遺跡の基礎的整理作業と本格的整理作業及び報告書作成を以下のとおり行った。

### 1) 基礎的整理作業

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	織沢河岸跡A・B	2	野牛島大塚遺跡
3	道々芽木遺跡	4	原山遺跡
5	北河原遺跡	6	寺部村附第9・中西第3遺跡
7	酒吞場遺跡	8	甲府城下町遺跡
9	原町農業高校前遺跡	10	甲府城跡
11	埋蔵銭貨出土遺跡詳細分布調査		

### 2) 本格的整理作業

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	百々遺跡2・4	2	百々遺跡3・5
3	大木戸遺跡	4	横町遺跡
5	久保田・道々芽木遺跡	6	五反田遺跡
7	酒吞場遺跡	8	原町農業高校前遺跡
9	国指定史跡鏡子塚古墳附丸山塚古墳	10	金山金山遺跡

### 3) 報告書作成事業

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	横町遺跡	2	久保田・道々芽木遺跡
3	五反田遺跡	4	国指定史跡鏡子塚古墳附丸山塚古墳
5	金山金山遺跡	6	下西畑遺跡・西畑遺跡・影井遺跡・保坂家屋敷墓
7	百々1		

### 3. 資料普及課の事業

資料普及課は、平成12年度に新設され2年目を迎え、1課2担当、課長以下7名で構成される。主な事業は、調査資料の整理及び報告書作成、学校教育・生涯学習等に対応した教育普及活動、収蔵品の整理・管理等がある。

発掘調査資料の整理及び報告書作成は、同課への調査担当者の配置に基づき行われた。

学校等への教育普及活動は、平成9年8月13日付で文化庁から通達された「出土品の取り扱いについて（通知）」等や小中学校の「総合的な学習の時間」の実施など、学校教育側、社会教育側両者の期待に対応するとともに、「発掘調査で得られた資料を如何に利用するか、活用していくか」という、当センターの課題への取り組みの一つとして実施された。その主な活動内容は、考古学出前授業と遺跡概説書作成である。

考古学出前授業は、昨年同様、依頼に基づく、講師派遣の形態により、県内出土の実物資料を学校に持ち込み授業を行ったり、土器づくり、火起こし、縄文食づくり等の体験学習の指導を実施した。依頼件数は10件あり、すべて学校からで内1校を除き今年度新たに依頼された学校である。また依頼する地域に偏りが見られることから、来年度以降は更に新たな地域の学校からの依頼が予想され、事業量の増加が見込まれる。児童・生徒の授業に取り組む姿勢や実施後に寄せられる感想から今後の活動に向けての反省点を得るとともに、あらためて文化財行政における学校等との連携の重要性を再認識した。

遺跡概説書は「身近な古代を調べようワークシート」と題して今年度から2カ年にわたり予算化され、県内各地域ごとの遺跡を遺構、遺物の写真により紹介し、小中学校を始めとする県内教育関係機関へ配布するものである。今年度は北巨摩郡、中巨摩郡、甲府地域、米年度は東山梨、東八代、郡内地域を作成する。

収蔵品の整理・管理は、今年度より報告書作成が終了した遺跡の遺物について収蔵庫内へ遺跡ごと報告書掲載順にプラバコに整理し、収納場所を随時検索可能とするため、管理データベース化を計っている。



発掘体験（鯉沢中学校）



土器づくり（瀬戸小学校）



縄文食づくり（相川小学校）



火起こし（琢美小学校）

## 1. 出前授業一覧

番号	学校名 (所在地)	活動の種類	日程	時間	対象児童・生徒数	職員数	学習内容	火起こし方法				
								市販	地元	大木式	薪割式 行燈式	
1	笹子小学校 (大月市)	総合学習	4月18日	2.5時間	全6年生(1クラス)・7名	4名	土器づくり		○			
			5月2日	2時間	n	4名	土器焼き・火起こし			○		
<p>概要 初めてにもかかわらず巧みに作りあげる。 校舎裏で野焼き。霧雨であったが、焼成は成功。</p>												
2	浅利小学校 (大月市)	総合学習	5月21日	2.5時間	全6年生(1クラス)・6名	2名	土器づくり					
			5月24日	0.5時間	n	6名	土器補修					
			6月1日	2時間	n	2名	土器焼き・火起こし			○	○	
<p>概要 縄文・弥生土器を作るが粘土の水分が多く、3回作り直した児童も見られる。 天気の影響で乾燥状態が悪く、磨きはあまり施せず、児童に磨き方の指導を行う。 コメを煮て水漏れ防止を行う。焼成前のひびが割れが目立つ。</p>												
3	上野原小学校 (上野原町)	総合学習	5月24日	2.5時間	全6年生(4クラス)・125名	6名	土器づくりデモ・火起こし				○	○
			7月16日	2時間	n	6名	土器焼き					
<p>概要 各クラスごとに土器づくりデモを行う。後日、先生が土器づくり指導して作らせる。 数が多く、薪の量が不足気味。砂の混合比が低いためか、ひび割れが目立つ。</p>												
4	勝沼小学校 (勝沼町)	総合学習	6月14日	2.5時間	全6年生(2クラス)・43名	6名	土器づくり				○	
			6月15日	1時間	n	6名	土器補修					
			6月26日	2時間	n	6名	土器焼き・火起こし					○
<p>概要 雨天のため成形に苦労する児童が多い。 土器のひび割れなどのメンテナンス。 校庭で野焼き。薪の量が不足気味。</p>												
5	琢珠小学校 (甲府市)	総合学習	7月13日	2時間	全5年生(2クラス)・42名	5名	火起こし				○	○
<p>概要 弓鉤法で成功する児童が多い。</p>												
6	落合小学校 (甲西町)	総合学習	10月2日	2.5時間	6年生(1クラス)・24名	4名	土器づくり				○	
			10月29日	2時間	n	4名	土器焼き・火起こし					○
			11月22日	2時間	n	3名	縄文食づくり					
<p>概要 個人と班ごとの土器成形のため、時間が不足気味。 校庭で野焼き。 各班で調べたドングリ食をつくり、土器煮と石焼きで調理。土器の底が割れたが縄文スープ完成。</p>												
7	相川小学校 (甲府市)	総合学習	10月22日	1時間	全6年生(2クラス)・79名	1名	縄文土器の講義					
			11月19日	1時間	n	1名	粘土検査					○
			12月3日	2時間	n	5名	土器づくり					
			12月14日	2.5時間	n	4名	土器焼き・縄文食講義					
			1月23日	2時間	n	4名	縄文食づくり					
<p>概要 縄文土器などの講義。 地元で採取した粘土により土器づくりできるかを検査。 地域の粘土で製作可能。 校庭で野焼き。土器の数が多いため、実棟を拡張。 各班で調べた縄文料理(縄文クッキー、スープ、団子など)を土器煮と石焼きで調理。</p>												
8	大塚小学校 (三珠町)	総合学習	10月26日	1時間	5年生・4名	2名	3珠町内の遺跡などをセンターで講義				○	
			11月13日	2時間	全5年生・13名、全6年生・19名	3名	土器づくり					○
			11月26日	2時間	n	2名	土器焼き・火起こし					○
<p>概要 市販マップの作成。 市販の砂に水分が多く、急遽砂場の砂を利用。 焼成時に土器の粘付の剥落が多い。</p>												
9	おかげの養護学校 (龍崎市)	総合学習	11月7日	2時間	中学部1～3年・9名	2名	火起こし、縄文食づくり				○	○
<p>概要 縄文クッキー、スープを作り、実食。火起こしを成功する生徒が多い。</p>												
10	瀬戸小学校 (大月市)	総合学習	11月8日	2時間	全6年生(1クラス)・14名	2名	土器づくり				○	
			11月19日	4時間	n	2名	土器焼き、火起こし、縄文食づくり					○
<p>概要 砂の水分が多く、型崩れする児童が目立つ。 ドングリ食をつぶしコメと一緒に煮炊きし、実食。土器焼きと調理実習のため、予定時間を超過。</p>												

## 2. 体験発掘一覧

番号	学校名	活動の種類	日程	時間	対象児童・生徒数	職員数	学習内容
1	鍛冶中学校 (鍛冶町)	総合学習	7月9日	3時間	1～3年生・103名	2名	体験発掘
			7月10日	3時間	1～3年生・103名	2名	体験発掘
<p>概要 遺跡の説明を受けた後実際に発掘を行う(鍛冶河原跡)。</p>							

## 3. 職場体験一覧

番号	学校名	活動の種類	日程	時間	対象児童・生徒数	職員数	学習内容
1	北中学校 (甲府市)	職場体験	7月11日	2.5時間	2名	1名	職場の説明・見学、土器接合(大木工遺跡)。

## 4. 道具貸出許可一覧

番号	申請校	貸出期間	申請許可物件名	利用目的
1	沢松小学校 (上野原町)	10月25日	火起こし道具(火打ち金、火打ち石)。	総合学習で火起こし体験を行うため
		借入れの際、先生に火起こしの研修を行った。		
2	山梨園芸高校 (一宮町)	12月10日	火起こし道具(火打ち金、火打ち石)。	『心豊かな高校教育』の一環で『古代人の生活体験』を実施するため
		借入れ火起こし体験を取組等に活用した。		

#### 4. 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

貸出許可平成13年度一覧（許可申請許可順）

番号	貸出期間	申請許可物件名	申請者	利用目的
1	4.1～H14.3.3	金生遺跡出土 出土品278点	大泉村教育委員会	大泉村歴史民俗資料館常設展に展示のため
2	4.1～H14.3.3	郷土遺跡出土 深鉢2点 三角とう土製品1点 石棒2点 丸石1点	明野村教育委員会	明野村埋蔵文化財センターに展示のため
3	4.2～6.29	金の尾遺跡出土 花鳥山遺跡出土	山梨中銀金融資料館	山梨中銀金融資料館に展示するため
4	4.27～5.2	海道前C遺跡出土 金の尾遺跡出土 二之宮遺跡出土 一の沢遺跡出土 水口遺跡出土 宮の前遺跡出土	竜王町立竜王中学校	社会科授業の教材に使用するため
5	5.8～5.16	海道前C遺跡出土 獅子之前遺跡出土 上の平遺跡出土 金の尾遺跡出土 甲ッ原遺跡出土 一の沢遺跡出土 金生遺跡出土	甲府市立南西中学校	社会科授業の教材に使用するため
6	7.15～H14.2.27	金生遺跡出土 上野原遺跡出土 甲ッ原遺跡出土 一の沢遺跡出土	NHKプロモーション	「岡本太郎と縄文」展に展示のため
7	7.2～9.20	上の平遺跡出土 酒呑場遺跡出土 天神遺跡出土	長野県立歴史館	夏季企画展「何久遺跡と縄文人の世界 山梨の遺跡」展に展示するため
8	5.25～6.3	原町農業高校前遺跡出土	根きろう学校	授業の教材に使用するため
9	6.12～6.16	木筒レプリカ2点	南部町立陸合小学校	社会科授業の教材に使用するため
10	6.26～7.30	林野遺跡出土 原町農業高校前遺跡出土 久保田・道々茅木遺跡出土	富士吉田市歴史民俗博物館	巡回展「山梨の遺跡2000」に展示するため

番号	貸出期間	申請許可物件名	申請者	利用目的
10	6.26～7.30	久保田・道々茅木遺跡出土 土師注口付土器1点 土師高台环1点 土師小型壺1点 土師S字状口縁台付甕1点 土師高环1点 土師S字状口縁台付甕破片1点 土師バレススタイル壺破片1点 土師丸底壺1点 土師甕1点 土師环1点 布目丸瓦1点 布目平瓦1点 甕1点 土師环2点 土師皿1点 土師高台付环1点 土師高台付皿1点 パネル一式 百々IV遺跡出土 分銅1点 八棱鏡1点 土師6点 線刻土器13点 剥き取り一式 パネル一式 百々V遺跡出土 土師皿6点 土師小型壺1点 土師环3点 黒書土器6点 土師甕1点 土師2点 須恵壺1点 黒色土器3点 灰輪陶器皿1点 パネル一式 巖沢河岸跡出土 泥面子・土人形24点 焼銅・磁器碗2点 磁器碗1点 磁器皿6点 灯明皿など6点 薬瓶9点 玩具類一式 紅銅8点 銭貨16点 甲州金一分割1点 南錠二朱銀 五反田遺跡出土 土師甕破片4点 土師甕2点 土師鉢1点 土師塔1点 土師小型壺1点 土師台付甕 土師壺1点 土師环3点 パネル一式	富士吉田市歴史民俗博物館	巡回展「山梨の遺跡2000」に展示するため
11	9.26～12.6	酒谷場遺跡出土 甲ヶ原遺跡出土 深鉢6点 深鉢1点	釈迦堂遺跡博物館	第13回特別展「柚家文土器の世界」に展示するため
12	8.31～H14.1.8	百々遺跡出土 黒書土器3点 刺書土器1点 灰輪陶器1点 土師甕3点 土師壺1点 土師土管1点 土師环11点 土師皿1点 深鉢破片25点 浅鉢破片2点 壺破片28点	白根純源美術館	町民学習に供するため

番号	貸出期間	申請許可物件名	申請者	利用目的
12	8.31～H14.1.8	横須賀遺跡出土 小型破片2点 底部破片15点 胴部など破片類4点 土製円盤4点 土偶1点 土製スプーン1点 石鏝1点 模形石器4点 挟入石器2点 二次加工のある剥片石器2点 剥片石器11点 剥片13点 砕片1点 打製石斧9点 横刃形石器1点 礫器7点 敲石2点 磨石1点 台石2点	白根桃源美術館	町民学習に供するため
13	8.1～8.31	桂野遺跡出土 深鉢形土器4点 有孔両付土器1点 土偶1点 集石から発見された石9点 集積の炭化物が付着した石一式 パネル一式 原町農業高校前遺跡出土 深鉢10点 浅鉢2点 石鏝5点 黒曜石破片一式 凹石・磨石一式 打製石斧一式 土製耳飾1点 土製品3点 土偶4点 炭化材一式 墨書土器2点 転用硯1点 炭化物2点 パネル一式 久保田・道々芽木遺跡出土 土師土師壺破片1点 土師台付壺破片1点 土師注口付土器1点 土師高台坏1点 土師小型壺1点 土師S字状口縁台付壺1点 土師高坏1点 土師S字状口縁台付壺破片1点 土師バレストイル壺破片1点 土師丸底壺1点 土師壺1点 土師坏1点 布目丸瓦1点 布目平瓦1点 甗1点 土師坏2点 土師皿1点 土師高台付坏1点 土師高台付皿1点 パネル一式 百々IV遺跡出土 分銅1点 八段鎌1点 土鏝6点 線刻土器13点 刺ぎ取り一式 パネル一式 百々V遺跡出土 土師皿6点 土師小型壺1点	釈迦堂遺跡博物館	巡回展「山梨の遺跡2000」に 展示するため

番号	貸出期間	申請許可物件名	申請者	利用目的	
13	8.1~8.31	百々V遺跡出土 土師環3点 墨書土器6点 土師甕1点 土師2点 須恵甕1点 黒色土器3点 灰輪陶器皿1点 バナール一式 織沢河岸跡出土 泥面子・土人形24点 焼酎・磁器碗2点 磁器碗1点 磁器皿6点 灯明皿など6点 茶瓶9点 玩具類一式 缸皿8点 銭貨16点 甲州金一分割1点 南鐘・朱銀 バナール一式	歡迎堂遺跡博物館	巡回展「山梨の遺跡2000」に 展示するため	
14	7.1~H14.3.3	金の尾遺跡出土 花鳥山遺跡出土	山梨中銀金融資料館	山梨中銀金融資料館に展示す るため	
15	7.24~H14.1.12	安達寺遺跡出土	文化庁	大英博物館 海外展「古代日 本の聖なる美術」	
16	7.22~8.3	甲ヶ原遺跡出土 類無遺跡出土	甲府市立南西中学校	体験学習に使用するため	
17	9.20~12.8	一の沢遺跡出土 大神遺跡出土 中谷遺跡出土 酒呑場遺跡出土	有孔銅付土器1点(国産文) 有孔浅鉢1点 注口土器1点 有孔銅付土器1点	広島県立歴史民俗資 料館	特別展「広島酒文化-酒蔵 とともに-」に展示する
18	8.2~11.29	一の沢遺跡出土	土器1点	NHKプロモーション	国立科学博物館における「日 本人はかなな」に展示する ため
19	11.2~12.28	天神遺跡出土 酒呑場遺跡出土 人月遺跡出土 金生遺跡出土	翡翠大珠1点 翡翠大珠1点 翡翠大珠半製品1点 翡翠原石1点 翡翠大珠1点 翡翠大珠1点 翡翠大珠1点	青森県立郷土館	特別展「火炎土器と翡翠の大 珠-土の芸術、石の美、そし て伝承交流-」に展示
20	10.1~12.9	真宿池遺跡出土 京原遺跡出土 米倉山B遺跡出土	雙椀1点 弥生壺1点 土器破片8点 甕片1点 高城出土品 煙管・陶磁器類60点	豊富村郷土資料館	秋季企画展「いにしえびとの はか・ハカ・郷-発掘成果で 見る豊富村周辺の墓-」に展 示するため
21	H14.1.9~3.29	重郎原遺跡出土	土器38点	塩山市教育委員会	市民の学習に供するため
22	H14.1.9~3.29	百々遺跡出土 横堀遺跡出土	墨書土器3点 刻字土器1点 灰輪陶器1点 土師甕3点 土師壺1点 土師土管1点 土師環11点 土師皿1点 深鉢破片25点 浅鉢破片25点 壺破片28点 小笠原破片2点 底部破片15点 胴部など破片類4点 土製円盤4点 土偶1点 土製スプーン1点 石鏝1点 権影石器4点 扶人石器2点	白根町教育委員会	市民の学習に供するため



掲載許可平成13年度一覽

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物名
1	4月2日	須玉町長	「須玉町史 通史編第1巻」に掲載のため	塚部遺跡出土 馬の遺跡
2	4月6日	日本道路公団東京建設局上野原工事事務所	中部横断道PRビデオ映像に利用するため	百々遺跡出土 青銅鏡 「甲斐」墨書の上師
3	4月20日	山梨市史編纂委員会	山梨市兒川河床出土のナウマンソウ化石調査報告書に掲載のため	見川川床第3トレンチ十層写真
4	4月22日	中山誠二	第7回方形周溝墓研究会の発表で使用するため	十五所遺跡 方形周溝墓5点 塩部遺跡 方形周溝墓5点
5	5月8日	株式会社 角川書店	「日本史の世界」に掲載のため	金生遺跡 配石遺構
6	5月11日	株式会社 昭和堂	「アジア陶芸史」(仮称)に掲載のため	殿林遺跡出土 深鉢形土器
7	5月16日	株式会社 平凡社地理出版	「城と城下町の旅100選」に掲載のため	甲府城跡 天守台3点
8	5月29日	中道町教育委員会	「広郷をかみち」に掲載のため	鏡子塚古墳 内行瓦文様
9	6月13日	國學院大學	「FLAMING POTTERY: ART AND LANDSCAPE IN」	大神遺跡出土 深鉢形土器
10	6月19日	白根町教育委員会	白根町立美術館美術館付展示室にて展示するため	百々遺跡出土 有孔浅鉢形土器 発掘風景2点 出土状況3点 航空写真3点
11	6月25日	株式会社 あすなろ書房	「衣食住」に見る日本の歴史に掲載のため	一の沢遺跡出土 深鉢形土器
12	7月10日	広島県立歴史民俗資料館	「広島への酒文化一演説とともに」に展示、図録に掲載のため	一の沢遺跡出土 有孔罎形土器 大神遺跡出土 有孔浅鉢形土器 中谷遺跡出土 注口土器 酒呑場遺跡出土 有孔罎形土器
13	8月10日	NHK事業局NHKプロモーション	「日本人はるか昔」展図録に掲載のため	一の沢遺跡出土 縄文土器
14	8月28日	青森県立郷土館	特別展「火災土器と壺の大珠—上の雲南、石の美、そして広域交流—」図録・ポスター等に掲載するため	大神遺跡出土 壺形大珠 酒呑場遺跡出土 壺形大珠2点 金生遺跡出土 壺形大珠
15	8月31日	株式会社 セレブロ	「映像考古学」及びその解説冊子、広域版に使用するため	金生遺跡出土 ヒスイ大珠・石剣 石棒・埴輪石・石帯 土土器
16	9月3日	長沢宏昌	(社)山梨県建設業協会	鳥屋原原塚古墳出土 赤土元年鏡神獣 安達寺遺跡出土 イノシシ手小壺深鉢形土器 蛇体装飾付有孔罎形土器 酒呑場遺跡出土 サンショウウオ文付深鉢 内土器セット 一の沢遺跡出土 イノシシ・蛇形手深鉢土偶 土偶 深鉢形土器展開写真 顔面把手付土器 水塚土器
17	9月10日	クリエイティブアデック株式会社	広報誌「川原版」(第38号富山特集)に掲載のため	丸川出土 ナウマンゾウ大臼歯
18	9月10日		秋津企画展「いしつびとはか・ハカ・葛一発掘成果でみる豊富村周辺の島」に掲載するため	狐原遺跡 墓塚出土状況 米倉山B遺跡 竊輪出土状況4点
19	9月21日	須玉町長	「須玉町史 通史編第1巻」に掲載のため	金生遺跡 1号配石全景 1号配石 石帯 1号配石(棺内)人と馬跡り
20	10月3日	甲府市長	広報「甲府」及びインターネット等広報媒体に使用するため	考古博物館展示室内 甲府城複製
21	11月13日	株式会社 ランス	出光クレジット発行カード会員向け情報誌「MOCO」1月号に掲載のため	稲荷古墳出土 銀象嵌大刀
22	11月14日	境川村教育委員会	「ひがしやつしろの文化財」に掲載のため	不忠沢宮跡 出土土器
23	12月6日	株式会社 青澤社	「週刊ビジュアル日本の歴史」103号に掲載のため	金生遺跡出土 イノシシ下顎骨出土状況 イノシシ頭骨集合写真
24	12月18日	株式会社 青澤社	「週刊ビジュアル日本の歴史」105号に掲載のため	殿林遺跡出土 深鉢形土器
25	12月18日	株式会社 JTB情報開発	国際観光振興会ホームページに掲載のため	考古博物館 外観・展示室内
26	1月24日	白根町教育委員会	白根町社会科別本に掲載のため	百々遺跡出土 仕置跡・馬の骨
27	1月25日	株式会社 ネクサス	テレビ放送「芸術に恋して!」で放映のため	上野原遺跡出土 蛇体装飾付深鉢
28	2月14日	日本文芸出版株式会社	高等学校用芸術教科書「土産1」に掲載のため	殿林遺跡出土 深鉢形土器
29	3月1日	株式会社 東京堂出版	「日本古墳大辞典 補遺編」に掲載のため	鏡塚古墳 全景写真 上の平溝跡 全景写真
30	3月4日	慶応義塾大学 上村俊雄	講義及び論文に使用するため	鏡子塚古墳出土 スズガイ製土器(複製品)
31	3月14日	朝日新聞社出版局局員百科編集部	朝日百科「日本の歴史」①「源氏と平氏」付録「ここ10年の歴史発見」に掲載	鏡塚古墳 溝構完成状況
32	3月17日	山梨県立科学館	プラネタリウム「衆の声 大地の記憶 星の時間」内に使用するため	一の沢遺跡出土 土器群・土偶 安達寺遺跡出土 深鉢形土器 殿林遺跡出土 深鉢形土器 金生遺跡出土 土偶 宮の前遺跡 埋置出土状況
33	3月18日	株式会社 沢島書店	中学校対象歴史資料集「学び考える歴史」に掲載のため	甲つ原遺跡出土 石皿・罎石
34	3月18日	岡島俊男	「山梨市史」に掲載のため	兒川トレンチ断面図

## 5. 所内研究グループ

### 縄文研究部会

当部会では、前年度作成した「山梨の縄文絵引き」「草創期・早期」編に引き続き、「早期末・前期」編（前期前葉まで）を作成し、埋蔵文化財センター職員・各市町村職員を中心に配布した。また、絵引きの作成に先立ち、下吉井式と木島Ⅲ、Ⅳ・Ⅴ式について状況確認、石器使用痕の観察（おもに曲げ型刺離について）、釈迦堂博物館見学（「抽象土器の世界」）、縄文時代中期土器編年の再検討などの研修を行った。

### 花鳥山遺跡研究会

山梨県史編纂事業の一環として、國學院大學が所蔵する花鳥山遺跡の発掘調査資料を借用してきており、この資料整理及び図化を行う。そして考古学的な位置づけと資料化をはかる目的で本年度より発掘した。縄文時代前期の土器を中心に主な完形復元個体についてはすでに図化が終わっているが、破片資料については未だ資料化されていない状況である。破片資料を中心に拓本実測作業を順次進めながら、花鳥山遺跡で大半を占める縄文前期の諸儀式土器を中心にその現状の研究状況の学習をすすめた。全体量のおよそ1/3程を終えたが、次年度以降も資料化をはかり、公表できるよう準備していきたい。

### 古墳時代研究部会

当部会では、県内に所在する古墳についてデータ化し、順次それらをカード化する作業を行っている。今年度は、境川村・八代町周辺の踏査をおこなった。特に、八代町の奄塚古墳は、保存整備の一環として墳丘の確認調査をおこなっていて、今まで確認されていなかった覆石が発見されるなどの資料が追加された。しかし、計画に基づいた踏査が思うように進まないのが現状で、今後の活動について検討が必要である。

### 考古教材研究部会

当部会は文化財主事として赴任してきた小・中・高校の教員6名と専門文化財主事2名の計8名で構成されている。今年度は来年度から小・中・高校で完全実施される「総合的な学習の時間」をにらんで、山梨県内の史跡の歴史教材化というテーマに取り組んだ。山梨県の史跡（国指定11箇所・県指定17箇所・および史跡に準ずるもの3箇所計31箇所）をわかりやすくかつ身近な教材とするために、実際に各地に足を運び見学し立地や景観などを検討した。その後メンバーで資料を収集し、児童・生徒が地域を知り地域に興味・関心を持ち、地域の視点からも歴史を考えられる一助となるような山梨県の史跡に関する冊子を作成した。

### 実験考古学研究部会

当部会では、「須恵器製作工程の実体把握」を研究テーマとし、これまでに第1段階として土器製作、第2段階として半地下式窯構築を行ってきた。3年目を迎えた今年度は、第3段階として焼成実験を試みたが、空焚きの段階で天井の崩落をきたした。このため、焼成用に作成した杯型土器（信楽、瀬戸、猿投及び県内遺跡（道々芽木遺跡・甲府城跡）から採取した粘土に0～45%の15%単位で砂粒を混入したものを生地として使用）を電気窯により、焼成時の温度・時間を変えた場合の焼き締め焼成の実験を実施した。この結果、いずれのケースも破損なく、焼成温度100度上げるのに1時間という焼成温度の推移を維持することの重要性及び同じ焼成温度では焼成時間が短い程、砂粒の発泡が著しい状況を確認した。

来年度は、今年度の実験結果を踏まえ、須恵器製作技法、窯体構築方法、採取粘土の再検討を行い、焼成実験を実施したいと考えている。

## 文化財保護行政研究会

昨年度以前は文化財関連の法令を取り上げ、埋蔵文化財行政を進める上での問題点を整理し議論を深めてきた。今年度は「景観の保護」に焦点を当て「景観」と調和のとれた史跡整備はどのようなものかという問題点を軸に海外の事例を含めて議論を行った。主に議論の中心となったのは、どこまで復元をするのかという点であった。ある人にとっては判りやすい復元でも、別の人にとっては抱いていたイメージと合致しない復元となることである。この議論は推定復元を行う上で常に問われる課題であり、「判りやすさ」を追及するあまり独善的な表現に陥らないことが必要であることを再確認した。

## 6. 第14回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

青梅市郷土資料室文化財係長の久保田正寿先生を講師として、「土器焼成実験？覆い焼き？の実践例から」をテーマに平成13年2月15日に行った。講義について日本の焼成技術の特色と覆い焼きについての焼成方法の実践例と実験結果を中心に、実際につくられた土器類を実見しながらすすめた。また当センターの所内研究グループの「実験考古学研究会」がすすめる「須恵器の焼成実験」によって得られた土器の実験データとを比較するという検討も行われ、技術的な意見交換がなされた。

本県において県市町村ともに縄文土器づくりの経験は豊富にあるものの、弥生時代以降の土器の製作についてはほとんどないといえる。また平安時代には甲斐型土器と呼ばれる特徴的な土器が生産されており、その実際の製作技法などは研究の途についたばかりである。そこで今回は弥生土器及び土師器の製作法として実験研究を重ねてこられた成果について学ぶ機会とした。

これは、小中学校の「総合的学習の時間」が平成14年度から本格的に導入されることとなり、県市町村においても埋蔵文化財関係の「総合的学習の時間」への対応が要請されることが多くなった。このため埋蔵文化財の理解の促進を図るためにも、縄文土器ばかりでなく、弥生土器や土師器などの製作技法を埋蔵文化財担当職員が十分に理解しておく必要がある。さらに今回の研修会によって受講者が各自で実験を重ね、各地域における体験学習などの実践活動へつなげていけるような内容とした。

## 7. 山梨の遺跡展'2001

例年、当埋蔵文化財センターと市町村教育委員会が実施された発掘調査の成果を、年度末に「山梨の遺跡展」として発表・展示している。年度内に行われた発掘調査の成果の一部を、いち早く県民に紹介するもので、当センター主催で実施した。

年度内の開催は、平成14年3月16日から4月7日まで県立考古博物館の特別展示室を会場に、入場無料で行った。展示の内容は、①個別の遺跡の展示（当埋蔵文化財センター展示）、②市町村展示、③パネル展示、④新聞パネル展示の4種類の展示をした。①では、桂野（土器）、酒呑場遺跡（土器）、原山（土器）原町農業高校前（土器、石器、土製品）、鎌子塚古墳（埴輪）道々芽木（土器、瓦）、五反田（土器）、北河原（土器、陶磁器、石製品）、金山金山（石製品）、甲府城跡（瓦、石塔）、鵜沢河岸（瓦、陶磁器、土製品）の11遺跡の出土資料とパネル展示を行った。②では、敷島町村総遺跡（土器、銅製品、瓦）、同町松ノ尾遺跡（石製品、土製品）、楯形町新居田B遺跡（土器類）の各関係の教育委員会から出土遺物をお借りし、展示を行った。③では、資料普及課の活動内容をパネルを用い紹介した。④では、本年度、埋蔵文化財や発掘調査について新聞に掲載された記事をパネルを使い展示した。

これらの展示を通じて埋蔵文化財への理解、また山梨という郷土への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。

## 8. 遺跡調査発表会

県内で実施された発掘調査の内容を一般の方に広く知っていただくため、山梨県考古学協会との共催で年2回の遺跡調査発表会を実施している。スライド写真を用いた口頭発表に加え、コメンテーターをもうけたり、発表遺跡や県内で調査された遺跡の出土品・写真パネルの展示も合わせておこなった。

平成13年度上半期遺跡調査発表会（平成13年10月20日(土) 於：八田村ふるさと文化伝承館 参加者数 90名）

1. 三珠町「供養塚遺跡」（三珠町教育委員会 佐野 弘）  
弥生～古墳時代の住居跡のほか、方形周溝墓2基と「オエン塚」古墳の周溝が確認された。
2. 明野村「梅之木遺跡」（明野村教育委員会 高田賢治）  
平安時代の大きな集落跡。馬歯のほか「焼きゴテ」などが出土。牧との関連が注目される。
3. 敷島町「村統遺跡」（敷島町教育委員会 小坂隆司）  
平安時代の住居跡35軒。同町内天狗沢瓦窯跡で焼かれた「布目瓦」や「小仏像の台座」が出土。
4. 鉾沢町「鉾沢河岸跡」（当センター 小林 稔）  
富士川舟運の主要な河岸として繁栄。幕府の年貢米を納めたお米蔵跡に伴うお蔵台の石垣などが姿を現した。

平成13年度下半期遺跡発表会（平成14年3月16日(土) 於：帝京大学山梨文化財研究所 参加者数62名）

報告「平成13年度の県内文化財の調査と保護」（山梨県教育庁学術文化財課 山本茂樹）

今年度の県内の発掘調査件数は2月の段階で試掘調査を含め188件を数える。その中で特に注目された事例報告および、新規県指定文化財の保護・活用についての報告がなされた。

1. 長坂町「原町農業高校前遺跡」（当センター 正木季洋）  
縄文時代中期前半から後半および平安時代に属する集落遺跡の調査報告がなされた。
2. 若草町「寺部村附第6遺跡」（帝京大学山梨文化財研究所 宮沢公雄）  
古墳時代前期から中期および平安時代に属する集落遺跡の調査報告がなされた。
3. 玉穂町「北河原遺跡」（当センター 笠原みゆき）  
平安時代および江戸時代後半から明治初頭に属する集落遺跡の調査報告がなされた。
4. 上野原町「牧野遺跡」（上野原町教育委員会 小西直樹）  
中央本線トンネル工事などに用いられた明治時代の赤煉瓦焼成窯の調査報告がなされた。

## 9. 所内研修

本年度の所内研修については、昨年度に引き続きその成果を所員の共通認識として仕事に反映させ、さらに高度な業務遂行に資することを目的としている。昨年度までの発掘の技術や自然化学分析の方法からさらに具体的な実践例として、本年度は報告書をテキストにしておこなった。当センターでは、原則として発掘調査を担当した者が報告書刊行までを行うという発掘調査体制である。そこで昨年度刊行されたばかりの報告書をもとに、担当者を講師として成果報告し、研修に参加する他遺跡の担当者方々からコメント、意見を交換しながら、報告書の内容や形式、調査の方法など、貴重な情報交換の場とし、それぞれが担当する職務に反映できるようなものとした。発掘調査された遺跡についての成果や担当者の見解、考察などの考古学的な視点を中心として、さらに発掘調査の方法や報告書のあり方までも範囲にして進めていった。具体的な内容については、担当した報告書をもとに「発掘の方法」、「調査内容の概要」、「報告書の体裁」というテーマを設けた。こうした研修を重ねることにより、他者の調査した遺跡の概要や調査方法、また自分の作成した報告書の気がつきにくい不都合な点などが明らかになり、業務遂行における反省点とともに今後へと反映できるものになっている。

4月27日「大塚古墳」発表者 保坂和博

5世紀代の前方後円墳の確認調査

- 「道々茅木遺跡」発表者 長沢宏昌  
古墳時代から平安時代の集落跡
- 5月31日「壱番下堤跡」発表者 保坂康夫  
近世堤防の調査
- 6月28日「塩瀬下原遺跡」発表者 笠原みゆき  
縄文時代後期の敷石住居跡
- 8月30日「横瀬遺跡」発表者 野代恵子  
低地性弥生時代包含層の調査  
「民間信仰遺跡分布調査」発表者 田代 孝  
近世経塚を中心とした県内分布調査
- 9月28日「立石下遺跡」発表者 米田明訓  
平安時代の集落跡
- 10月31日「発掘業務の外部委託について」  
今後の発掘調査のあり方とその問題点
- 11月30日「甲府城発掘調査の監督員制度」発表者 宮里 学  
史跡整備と公園整備をすすめる甲府城事業での監督員制度の経緯・業務内容とその問題点
- 2月15日 市町村埋蔵文化財専門職員研修会 別項参照
- 3月28日 各研究部会の成果発表 別項参照

## 10. 寄贈・購入図書

平成13年度の登録図書数は約8,000冊である。その内容は、全国各県・市町村教育委員会などから送られてくる発掘調査報告書・年報・研究紀要や博物館・資料館などの企画展・常設展示図録、関係機関からの寄贈、業務に関係する考古学・歴史書・学術雑誌の購入などからなる。昨年までの蔵書数は約72,500冊で、今年度分を足すと約80,500冊となる。昨年同様、来所された方々や職員に幅広く活用されているが、増大する蔵書に対する収納スペースが不足しつつある。

## II 各遺跡の発掘調査概要

### 1. 歎沢河岸跡 A・B

- 所在地 南口摩郡歎沢町白子明神地区(歎沢町1374-5外)  
事業名 宅地水防災対策工事(歎沢河岸跡A)  
一般国道52号改築工事(歎沢河岸跡B)  
調査期間 2001年6月18日～2002年2月4日  
調査面積 A: 5,280㎡ (1,320㎡×4面)  
B: 7,480㎡ (745㎡×4面、2,250㎡×2面)  
担当者 A: 小林 稔・村石眞澄  
B: 小林敏徳・野代恵子



歎沢河岸跡位置図

甲府盆地を代表する二大河川である笛吹川と釜無川の合流点から約3km下流に歎沢河岸跡は位置する。この地は駿州街道と甲府盆地内の東西陸路交通の結節点にもあたっている。「歎沢河岸」は江戸時代に開かれた富士川舟運の船着場であり、青柳河岸・黒沢河岸とともに甲州三河岸と呼ばれた中の筆頭のものとして大いに発展し、今日の歎沢町発展の基礎となっている。この歎沢河岸跡の発掘調査は、既に1996年の明神白子護岸工事に伴って当埋蔵文化財センターにより実施され、御蔵台の一部にあたる荷積台跡などが検出されている。今回の事業では南北70m、東西が480mと細長い調査範囲ではあるが御蔵台跡・御米蔵跡・河岸間屋敷・道路遺構などが発見されている。

#### 御蔵台跡(歎沢河岸跡A5区・歎沢河岸跡B3区)

「御蔵台」とは甲府代官所支配下の村々からの年貢米をはじめとする物資を集積した歎沢河岸の中心をなす施設全体を指すものである。文献によるとこの中央奥に南北20間(36m)東西4間(7.2m)の規模をもつ「御米蔵」があり、この御米蔵の南に隣接して代官所役人の「御詰所」があり、これらの前庭に物資を一時的に野積みした荷積台が広がっていたとされている。さらに全体を囲む柵や出入りのための門を備え、敷地全体で南北40間(72m)東西30間(54m)の規模を有すとされるものである。今回の発掘調査では御蔵台跡全体に対しては部分的ではあるが北端の門跡と南端石垣と考えられる遺構を検出し、この間の距離が約73mであることを計測した。西端と東端は調査範囲の制約から発掘できなかったが、御蔵台跡の南北端の位置は正確に確認することができた。南端は他の石垣に比べて一際大きな石材を用いた高さ約1.8mの石垣であるが、これに対して北端は整った石垣がなく乱雑ないくつかの石積みか認められるだけである。これら乱雑な石積みは御蔵台の盛土内部の基礎をなすものであり、御蔵台北端の表面には石垣は露出していなかった可能性が高い。御蔵台跡は北側の低い土地から見ると全体が2mほど盛土された文字通り台地のような敷地であり、この上に高さ1.6mの基礎石垣をもつ御米蔵が建築されていたことが明らかになった。御米蔵跡南側の「御詰所」があったと考えられる場所では平坦でやや硬化した面が上下2枚検出された。また御米蔵跡を挟んで反対の北側からは、灯籠や鳥居の基礎と推測される礎石を前面に備えた稲荷社と思われる社跡の基礎石垣を発見した。この下層には、カマボコ状の高まりをもつ3条の荷積台跡が認められた。御米蔵跡前庭に南北方向の軸をもつ荷積台跡が存在することは1996年の発掘調査で判明していたが、御米蔵跡の北側部分にも軸が東西方向と異なるもの同様の施設があったことは御蔵台跡の敷地利用を推定する上で大いに注目される。御米蔵跡は東側が堤防護岸の下となり未確認であるが、北側と西側は高さ約1.6m、南側は御詰所と隣接するため高さ約60cmの基礎石垣で築かれている。北側の基礎石垣は御蔵台跡の入口正面にあたるため北西隅を中心に最も丁寧に加工された石材が積み上げられ、また西壁はコーナー部を例外として自然石や加工の度合の低い石材を用いているが、約37mと長大であるにも関わらず勾配が均等で非常に整っている。この規模は文献上の記録と一致する。床面については大半の部分で最近まであった住宅基礎の掘乱層が基礎石垣直上まで及んでいたが、幸いにも南の一部では層厚約1cmの炭化物質の上にやはり層厚約1cmの硬化した淡黄色の漆喰層が断片的に見られ最終段階の御米蔵の床面が遺存していた。「歎沢町誌」では「享保13年(1728)に松の根太木流出」という記録があり、板張りの床でなく土間状の床面に丸太状のものを並べた上に米俵を積み上げていたものと考えられる。最終段階の床面の下については、トレンチ2箇所部分的な調査ではあるが、この漆喰層床面から約80cm下と150cm下のレベルには軟弱で漆喰層は存在しないが生活面が連続して観察でき、古い段階の床面である可能性が高い。上層構造については、柱穴跡は認められず、内部の礎石は北部の一部に認められたが

後世の遺構に伴う可能性があり、土屋は主には四辺の基礎石垣で支えていたものと思われる。

地元での聞き取り調査では、御米蔵跡と国道との間には明治以降に舟運の発展に伴って倉庫などが建て増されたという。しかし江戸時代にはこの部分は長大な堰状の窪地であり、幕末段階以降の溢流洪水堆積物である細砂層を挟む人為的な盛土層で埋め立てられている。この埋め立て層の下部からは大量の赤瓦や焼土や炭化材が出土している。赤瓦は御米蔵跡の屋根を葺いていたとされるもので、平棧瓦・軒平棧瓦・袖棧瓦・棟瓦・製斗瓦・丸瓦などが出土している。この赤瓦で注目すべきは、熱を受けて使用に耐えないほど変形したり表面が発泡したものが多く認められることである。大量の焼土・炭化材などの火災の痕跡は、焼失した年貢米の賠償や賑沢河岸の存続に関わる大問題に発展した文政4年(1821)の賑沢河岸大火に結びつくものと考えられる。

#### 道路跡(賑沢河岸跡A4区北半)

駿州街道(現国道52号)から御蔵台跡に導かれる幅約4mの道路跡を検出した。両方の路肩は石垣が積まれ、強固に突き固められた路面が10層以上確認された。幕末から平成時代に至るまでの道路硬化面・溢流洪水堆積細砂層・盛土などが複合した堆積層は厚さ約4mにまで達している。洪水の被害を受けるたびに道路を上へ上へと積み重ねてきた結果であり、路面上には間隔約120cmの轍の痕跡が見られることから、洪水常習地帯で大八車などが往来可能な道路を維持するために相当な努力が必要であったことを物語るものである。またこの道路を横断する排水路は丸太を組んだ上に蓋石をせりあげた上に路面を構築し大八車などの荷重に耐えるようにつけられている。さらに道路両脇からは間隔約3.6mの門の柱材根底部(断面22.5cm×15cm)を発見し御蔵台跡の北端が明らかになった。

#### 「野守の原」北(賑沢河岸跡B4区北半)

御蔵台の南側から道路遺構が上下2面検出された。洪水による被害を常習的に受ける場所であるため、石垣で脇を護られ、水流を調整するための蛇籠が置かれるなどの水防対策が施され、「ぬかるみ」対策と思われる板材も敷かれていた。遺構は出土遺物から明治～昭和初期にかけてのものと推測され、御蔵台が明治8年に設立された富士川運輸会社に払い下げられた後に、この場所に敷設された道路であると考えられる。

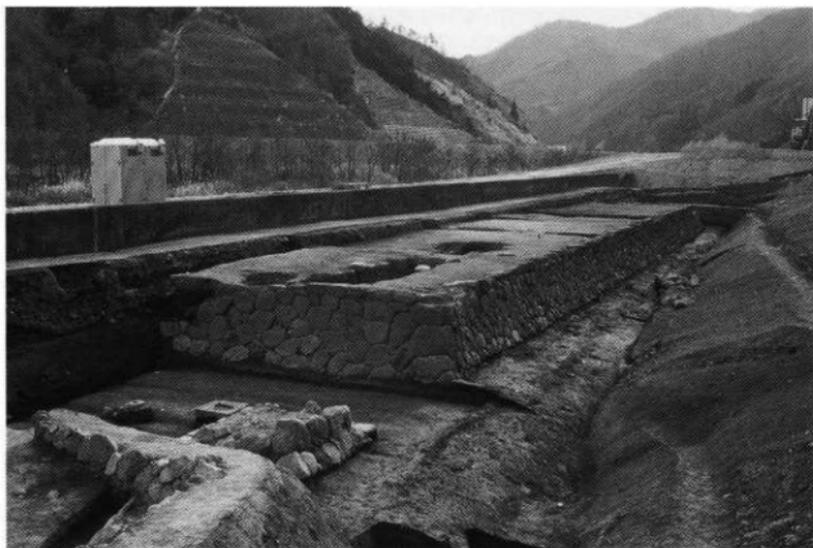
海野公機氏所蔵の絵図によると、江戸時代の「野守の原」は御蔵台に隣接することから火災時の類焼を避けるためか建物は存在せず、主に畑として利用されていた場所である。道路遺構の検出面下2メートルほどの掘り下げを行ったが、建物等の痕跡や旧地表面などは検出できなかった。

遺物は明治期以降の型紙摺り・銅版転写による染付磁器類が多く出土している。その他、馬具(はみ1点、蹄鉄11点)が道路遺構付近から出土している。賑沢は草競馬が盛んであったということだが、道路遺構の西側には馬小屋があったという地元の方々の記憶とも一致する。

#### 「野守の原」南(賑沢河岸跡B4区南半)

江戸時代に積まれたと思われる石垣が検出された。この石垣の特筆すべき点は、いずれかの場所から切り出されたほぼ同一の石材(軟質火山凝灰岩)を、表面だけでなく他の石材と接触する面まで丁寧に調整し積み上げた外観の美しさである。石材の大きな面を前面に出すために奥行きを浅い積み方になってしまっており、長方形の長辺が縦に並ぶように積んだ箇所も多く、垂直にくさび状に石を積んだ箇所もある。石垣のコーナー部の断面形は垂直に近い角度の「反り」を作っていることも含めて強度を犠牲にし「美しさ」「立派さ」を強調していることが認められる。同地区から検出された他の石垣が自然石をそのまま、あるいは半割程度の加工度の低い石材を用い、「反り」を作らずにある程度の勾配を持たせているなど、強度を重視した積み方をしているのに比べると明らかに違いがある。現段階では明確な答えを出すことは出来ないが、この石垣の北側からは2つに割れた「身延山道」と刻まれた石の道標片を含む石列が並ぶ道路遺構も検出されており、この地区の沢を隔てた南側は口留番所(関所)があったとされている場所であることから、石垣が口留番所へ通じる橋を含めた道等の重要な施設の一部である可能性も高いと考えられる。平成14年度以降に口留番所跡(B5区)の調査を進める中で検証していく必要がある。

出土遺物はコンテナ箱(30×45×25cm)に換算して300箱分の量があり、その内訳は赤瓦が最も多く次に陶磁器・土器類である。これらは整理中であるが御蔵台の利用の変遷史を明らかにする時間的な基準となるものである。この他に注目されるのは、宝船・大黒・忠比寿様など縁起物の泥めこん・土人形類約40点、寛永通寶を主とする銭貨約200点が出土したことである。これらは民家などの建物の基礎付近からの出土が多く、家内安全商売繁盛などを祈って撒いたり納めた可能性が高いと言える。これらは洪水常習地帯であっても深く舟運と結びついているために、どうしても川から離れられないという賑沢河岸に暮らす人びとの生活を反映しているものと考えられる。



御米蔵跡基礎石垣（北から）



御蔵台跡南端石垣（東から）



御蔵台跡・御米蔵跡へ続く道路遺構（北から）



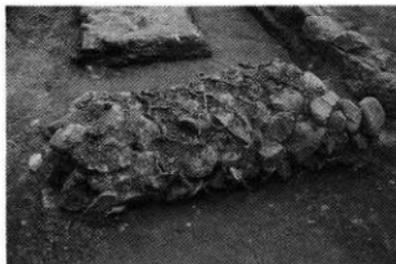
赤瓦出土状況（御米蔵跡西側）



御米蔵跡北側の稲荷神社跡（東から）



「野守の原」踏鉄出土状況（北から）



「野守の原」蛇籠（北から）



「野守の原」敷き詰められた板材（西から）



「野守の原」南端石垣（北東から）

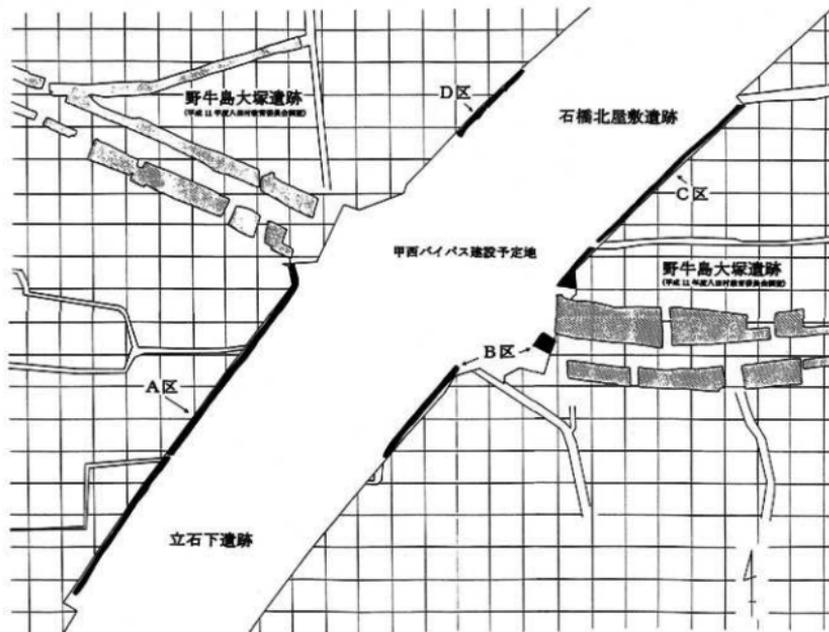
## 2. 野牛島大塚遺跡

所在地 中巨摩郡八田村野牛島地内  
 事業名 一般国道52号改築工事  
 調査期間 2001年11月6日～12月12日  
 調査面積 500㎡  
 担当者 窪田昌彦・笠原みゆき



野牛島大塚遺跡位置図

野牛島大塚遺跡は、御勅使川扇状地の扇中部から扇端部にあたり、西から東へ緩やかに傾斜する平地に立地している。遺跡の周辺は、小字名で付けられた遺跡の密集地であり、すでに、山梨県埋蔵文化財センターの調査による大塚遺跡・石橋北屋敷・立石下遺跡・仲田遺跡や八田村教育委員会による野牛島・大塚遺跡が知られている。今回の調査区は、中部横断道本線部分ですでに報告済みの石橋北屋敷・立石下遺跡に平行して隣接する四隅について行われた。範囲は、幅約1.5m・深さ約1～1.8m・長さは20m～80mの帯状の区域であった。それぞれA～D区と呼び、ABDCの順に調査をおこなったが、明確な遺構はA・B区で溝1条づつとC区の住居跡1軒であった。A区の溝とC区の住居跡は平安時代のもので、B区の溝は、江戸時代以降のものである。それ以外では、小さな坑が数基と、数十点の遺物が発見されたのみである。遺物は、遺構内から土師器の坏と須恵器の高坏の破片が、調査区の一部で縄文土器片が出土している。C区で発見された平安時代の竪穴式住居跡は、石橋北屋敷遺跡の南側にあたり、遺跡の端部が南に広がる可能性をみる事ができた。



野牛島大塚遺跡全体図

### 3. 道々芽木遺跡

所在地 甲府市桜井町字道々芽木655-7外  
事業名 西関東自動車連絡道路建設  
調査期間 2001年6月18日～12月17日  
調査面積 2,632㎡  
担当者 高野玄明・深沢容子



道々芽木遺跡位置図

道々芽木遺跡は、甲府盆地の北部、笛吹川の支流である十郎川右岸、山梨英和短期大学の東側標高約262mに位置する。

本遺跡の発掘調査は山梨県土木部による「西関東自動車連絡道路」の建設に先立ち平成11年から実施し、今年度で3度目の調査となる。前回の調査では、弥生時代後期～平安時代の住居跡、溝状遺構、土坑等の遺構から夥しい量の遺物と共に、貴重な資料も出土しており、今回の調査も、前回と同様に期待がもたれた。

本遺跡周辺には、国内有数の積石塚古墳群として知られる「横根・桜井積石塚古墳群」、白鳳時代の小金銅仏が出土した「東畑B遺跡」、寺本庵寺（春日居町）や甲斐国分寺（一宮町）に供給する瓦を焼成した「川田瓦窯跡・上土器瓦窯跡」、奈良・平安時代の土器生産遺跡である「大坪遺跡」など県内有数の重要な遺跡が数多く存在し、甲府市市域でも北部の千塚地区と並ぶ県内遺跡の密集地区として知られている。

今年度の発掘調査により確認された遺構は下記のとおりであるが、今回の調査区の残存状況はよくなく、擾乱などにより遺構は断片的であったものの、検出された遺構等からは前回の調査同様、遺物の出土量は相当数にのぼる。

弥生時代後期から古墳時代前期については、溝状遺構や遺物集中区が検出されている。遺物は、「小型甕」・「S字状口縁台付甕」・「台付甕」・「壺型土器」等が破片資料であるものの出土しており、いずれも東海地域や中部高地地域のからの影響を受けたものが見受けられた。

白鳳期～奈良時代については、明確な遺構は確認できなかったが、出土遺物で特筆されるのは、「布日瓦（平瓦・丸瓦）」である。しかし、出土量が少ないことから、寺院跡などの建物跡があったとは考えにくく、おそらく本遺跡周辺に存在する「川田瓦窯跡」や「上土器瓦窯跡」で焼成されたものである可能性が高い資料である。

平安時代については、土坑、溝状遺構、石敷遺構などが確認されている。出土遺物は、土師器環・環蓋・皿などの完形品や破片資料など数多く出土している。また、土坑内から木製品（円盤状・板状・棒状）が出土し、溝状遺構からは該期と思われる獣骨（馬の歯）等が出土している。該期の遺物が本遺跡の主体を占め、圧倒的に供膳形態と言われている環・皿・蓋等が目立つ。時期は9世紀前半～10世紀前半代のものが見られるが、該期の甕や鉢類などの遺物に関するものがほとんど見られない状況であった。

道々芽木遺跡は、平成11年度から今年度で3カ年の調査にわたる発掘調査が実施された。この結果、遺構に伴って夥しい遺物の量と、貴重な資料が出土するなど、多大な成果が得られている。今回の調査では、遺跡の残存状況はあまり良いとは言えなかったものの、遺物に関しては良好な資料が得られている。

前述したように、3度の調査により多大な成果が得られた。このように本遺跡の持つ意味は非常に大きく、本遺跡と周辺遺跡（生産遺跡）の関わりを究明していくうえで、貴重な資料の提供となった。



遺跡全景



(玉穂町) 三村小学校現地学習会



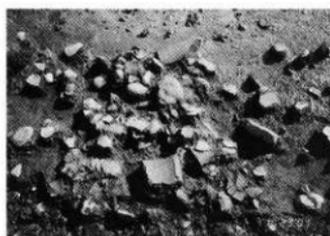
1号溝状遺構検出状況



2号溝状遺構完掘状況



石敷遺構完掘状況



2号溝状遺構遺物出土状況 その①



2号溝状遺構遺物出土状況 その②



調査風景



1号溝状遺構調査風景

#### 4. 五反田遺跡

所在地 山梨県塩山市熊野地内  
事業名 塩山東バイパス建設  
調査期間 2001年6月11日～8月10日  
調査面積 800㎡  
担当者 斉藤 伸・吉岡弘樹



遺跡は、塩山市内を南に流下する重川右岸の扇状地上（標高約375m）に位置している。当地域から北方を望むと標高552mの塩ノ山が市街地を凝視している様子が良く分かる。

遺跡のある熊野地区周辺には、昭和53年に調査された古墳時代としては 五反田遺跡位置図  
県内最大級の集落跡とされる西田遺跡や平成10・11年の2ヶ年  
に渡って調査され縄文時代前期および平安時代の住居跡が検出された大木戸遺跡をはじめと多くの様々な時  
代の遺跡が密に分布している。

発掘調査は平成12年度に調査された部分の南側を隣接する人家・工場に配慮し、期間約2ヶ月、面積約800㎡の  
予定で実施された。

その結果、古墳時代前期の住居跡3軒、平安時代住居跡3軒、土坑7基、溝5条などが検出された。

古墳時代前期の住居跡は確認面から約20～30cmの壁高を測るものの昨年度調査された住居跡と異なり遺物の出土は希薄であった。昨年度の調査結果などと総合して判断すると当該期の集落は、遺跡分布図や地形等の検討から調査対象地の東側に展開するものと推測でき調査対象地は遺跡の西端部にあたると考えて良いものと思われる。構築された時期はすべてがおおよそ古墳時代前期の五領期と理解できるものである。主軸方位は北東～南東方向を指し、一見、現在の等高線に対し大まかに直行する様相を呈しているようであるが隣接する西田遺跡のような統一性のある方向は求められない。

平安時代住居跡は、攪乱等で多くが削平されておりその存在の確認は容易にはできなかった。このため全容が明らかとなったものは少ない。主軸方位は全てが東南東に取っているが、構築時期は出土した遺物類の検討から9世紀第2～3四半世紀と11世紀代に分類でき、そこに大きな時期差があることが分かる。

今回、検出されたものは、塩山市内において比較的多く確認されている資料であろうが、地域間の空白を埋める貴重な成果のひとつと考えて良いであろう。



調査区全景



古墳時代住居跡検出状況



調査風景

## 5. 原山遺跡

所在地 山梨県東八代郡御坂町上黒駒字原山山地内  
事業名 国道137号上黒駒バイパス建設  
調査期間 2001年5月21日～7月9日  
調査面積 1,200㎡  
担当者 保坂康夫・田口明子

御坂町は山梨県のほぼ中央部、甲府盆地の東南縁に位置し、御坂山塊とその扇状地上に展開する。本遺跡は町の中央を東から西に流れる金川の左岸約150m、金川の支流である神座山川右岸約50m、標高約650mの斜面に立地する。

調査区を現在の区画から1～3区に分けた。1・2区は水田で、3区は豚舎があった。調査に入る時には3区に建物は無く2m以上の盛土がなされていた。遺構は、時期不明の風倒木痕2基が確認されたのみである。遺物は縄文時代早・前・中・後期の土器、石器、黒曜石の剥片等約1,000点が発見された。遺物のほとんどは1区からの出土で、後期後葉の加曾利B式期が主体となる。



原山遺跡位置図



1 区



2 区



3 区

またかわら  
6. 北河原遺跡

所在地 中巨摩郡玉穂町極楽寺地内  
事業原因 山梨新環状道路建設に伴う事前調査  
調査期間 2001年6月11日～10月12日  
調査面積 約1,046㎡  
担当者 窪田昌彦・笠原みゆき



北河原遺跡位置図

遺跡の所在する玉穂町は、笛吹川の右岸・釜無川の沖積原に位置している。町内には、いくつもの河川が北から南に流れていて、その河川に挟まれた微高地に現在の生活が営まれている。遺跡は、町内の東端にある極楽寺という地域にあり、鎌田川を挟んで東側が甲府市と隣接している。この地は東を鎌田川、西を神明川に、南を笛吹川に囲まれ、さらに地区の中央に淡川が流れるという地形をしている。北から北河原・中河原・西河原・下河原・砂川など、川に関わる地名が多いことが特徴といえる。また、極楽寺という地名は古くは戦国期にみられ、その由来は、かつて極楽寺という寺が存在し、この寺名から地名がついたとされている。その後、極楽寺氏という氏名が文献に見られるようになったという。元になった寺は、早くに無くなったと考えられているが、この地名のためか、極楽寺地内には、曹洞宗のお寺が3カ所設けられ、このうちの2つ（安楽寺・常光寺）は現在も存在している。この曹洞宗の消滅してしまった寺跡が、今回の発掘調査の対象とみられていた。この寺は、三光山長慶寺といひ寛永7年春郡の開山と言われている。3つのお寺の中では、最後に建てられたものである。

調査の結果、平安時代末から近世までの遺物が出土し、近世を中心とする遺構が発見されている。遺構は、墓塚3基・土坑13基・溝状遺構6条・溝2条・ピット60基などである。この遺跡で、特筆されるものは、人骨を伴う3基の墓塚である。1号墓塚は、頭を北側にした屈伸葬で、90cm×65cmの木枠に窮屈そうに埋葬されていた。顎の下に漆の椀と、腕の近くに白い石と腐食した金属の塊が埋葬されていた。また、木枠の北側外には、直径10cmほどの大きさの小鉢が添えられていた。2号墓塚は、長径110cm×短径95cmの楕円形で、確認面から底面まで60cmであった。頭は1号墓塚同様北向きで、屈伸葬であった。土坑内の覆土のかなり上層から完形に近い素焼きの皿と、土器の破片が1・2点出土している以外、副葬品は埋葬されていなかった。3つの墓塚のなかでは、最も残存状態のよい土坑だったにもかかわらず、人骨自体は最も保存状態が悪かった。しかも、雨が降って土坑が水没してしまい骨がさらに脆くなってしまった。3号墓塚は、確認面が浅く、人骨の残存状況が悪かった。しかし、足に近い部分から、1枚は縦位、もう1枚は逆位という2枚の素焼きの皿が出土している。3号墓塚は、他の2基と違い南に頭を配置していた。2・3号墓塚は出土した素焼きの皿の形態が似通っていることから、近い時期に埋葬されたものと考えられるが、1号墓塚は、土坑の造り方や副葬品の違いから、もう少し古い時期に造られたといえる。この他、調査区を東西に流れる溝・これに直交する溝などが検出され、18世紀半は頃の陶磁器や木製品が発見された。さらに60基ほどのピットの中には、かわらけや木製漆椀が出土するものがあつた。ピットの中から出土したかわらけは、1枚から2枚あり、そのうちの1枚は縦位置で出土している。このような例は、中世的な要素とも考えられ、その詳細な理由はわかっていない。前述した3号墓塚出土のかわらけも1枚を縦位置であったことから、同時期の遺構の可能性もある。当初、長慶寺との関連性を考えていたが、調査区から出土した遺構や、地元知識者から頂いた古地図をみると、寺院跡はもう少し北西で淡川に近い位置にあったといえる。しかし、遺構・遺物の出土状況からみると、長慶寺の建立より古くなる可能性も指摘でき、現在、不明である極楽寺との関係も想定できる。今回の発掘調査では、寺院本体に関する遺構・遺物は確認できていない。今後、出土遺物の細かい検討によって、寺院との関係は明らかにしたい。



北河原遺跡全景



3号基壇遺物出土状況



52号ビット遺物出土状況



2号溝検出状況

てら べむらつき なかにし  
**7. 寺部村附第9・中西第3遺跡**

所在地 中巨摩郡若草町寺部地内  
 事業名 新山梨環状道路建設  
 調査期間 2001年8月20日～10月15日  
 調査面積 1,300㎡  
 担当者 小林広和・楠間美季江

遺跡は甲府盆地西部の御勅使川扇状地上の南端（標高約270m）に位置している。西方には櫛形山を前衛として北岳を主峰とする白峰三山や鳳凰三山などの南アルプスの山塊を仰ぎ見ることができる。周辺には甲府盆地西部地域における古墳時代の拠点集落とされ、100軒を超える住居址が確認されている村前東遺跡、奈良時代の遺構・遺物が多く確認されている新居道下遺跡などが存在し、弥生時代以降の集落や水田跡が広く展開されている。

調査区域は便宜上道路を挟んで北側（1区）と南側（2区）に分け、面積約1,300㎡の予定で実施した。その結果、2区において遺構では土坑16基、溝状遺構8～10条を確認した。この中で特記されるのは、調査区南端で検出された排水遺構は、幅50cmの小規模な溝を掘削して、数メートルごとに円形の水溜を設けている。このことから石組を伴う土坑も同様な性格を持ったものと推測され、今後の調査でその全容を解明したい。構築年代は近世以降と考えられる。土坑についてはそれぞれ不整形を呈しており、調査区全域に点在しているため、それぞれの関連性もあまり見られない。溝状遺構については、やや北西よりから南東より伸びており、南側においては、ほぼ東西に直交する溝も確認できる。その溝と東に位置する土坑は繋がっており、何らかの用途が考えられる。調査区中央部において、ピットが集中して検出されたが、規則性は見られなかった。

遺物では、平安時代から中世の土器が出土しているが完形品と思われるものはない。また牛と思われる獣骨が検出されているが、表土からの出土のため流れ込んできたものと思われる。他には初鋳621年とされる、背面に月の印が入った開元通寶が一枚表土より出土しているが、中国の私鑄銭や本邦模鑄銭も混在しているため、その分類は困難である。遺存状態は良好である。

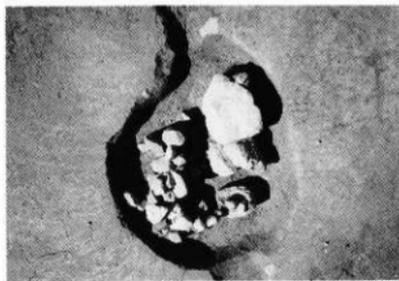
調査区は以前水田跡だったため湧水、暗渠埋設により水の流入が激しく、排水用の溝と水汲み上げ用の釜場を設け対処しながら調査を行った。今回の調査において本遺跡は溝状遺構、流路跡、土坑等が確認されたのみであり、資料の量も少なく、地域間の空白を埋めることは出来なかった。



寺部村附第9・中西第3遺跡位置図



調査区全景



6号土坑遺物出土状況

## 8. <sup>さけのみど</sup>酒呑場遺跡

所在地 北巨摩郡長坂町長坂上条地内  
事業名 酪農試験場発酵施設等建設  
調査期間 2001年10月2日～11月21日  
調査面積 391㎡  
担当者 保坂康夫・田口明子



酒呑場遺跡位置図

山梨県の北西端、八ヶ岳の南麓に位置する本遺跡は標高約700mを測り、南に向かって並行して流れる大深沢川と宮川に開析された南北に長狭な舌状台地上に占地する。本遺跡は当センターと長坂町教育委員会により、1995～1997年度にわたってA～I区まで調査されており、縄文時代の住居跡213軒、土坑など5850基、古墳時代の住居跡15軒、掘立柱建物跡5棟、中・近世の溝2条が発見されている。

今回の調査区はJ区とし、現存する堆肥舎の北・西側をほぼ鉤の手に設定された。堆肥舎の周囲は堆肥舎建設時に大きく攪乱されており、調査対象面積の約4分の1は遺跡が確認されなかった。確認された遺構は縄文時代の住居跡7軒、土坑など20基、発見された遺物は縄文時代前・中・後期の土器、石器と古墳時代の土器（プラ箱約40箱）である。

調査区北側では、遺構の重複が激しく、また調査範囲が狭かったこともあり、1～5号住居跡が発見されたが、炉は1・2号住居跡でのみ確認された。

調査区南端に位置する縄文時代中期後葉の7号住居跡は北壁の一部と炉を1基確認した。西壁際で、7・8号土坑と重畳する。住居跡の規模は径6m以上で壁際には、幅約20cm、深さ約35cmの溝が巡り、炉は地床炉である。



7号住居跡

## 9. 金山金山遺跡

- 1 所在地 南都留郡秋山村金山字奥山4519外  
 2 事業名 金山金山遺跡発掘調査  
 3 調査期間 2001年6月21日～9月3日  
 4 対象面積 1,000㎡  
 5 調査担当者 三森鉄治・網倉邦生

金山金山遺跡は、山梨県の東南部、高柄山(733m)と金山峠に挟まれた金山川の沢沿いに立地し、標高約450m付近に位置する。近隣の山間には露天掘り跡が点在し、戦国期にまで遡る可能性が指摘される。また、周辺部には不自然な地形を呈する平坦地も数箇所あり、採金に伴う仕事場を造成する目的で山肌を削平した場所ではないかと推測される。

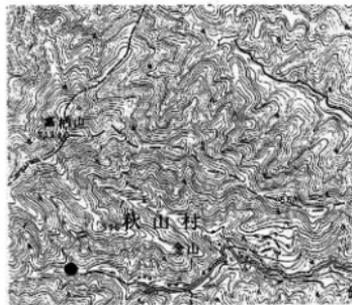
本年度の発掘調査は、平成10年度に続く第2次調査に当たる。前回の調査では、旧社務所の礎石と見られる配石遺構、その下層に焼土と炭化物の広がる層が検出されたが、採金に直接関連すると見られる遺構・遺物の確認までには至らなかった。

今回の発掘調査では、新たに3つの遺構面が確認された。最も上層の第1面からは、明治初頭の陶磁器片が出土し、その下層の第2面からは江戸期に遡る磁器片が検出されたことから、それぞれ明治期、江戸期に対応する面と推定される。さらに任意のトレンチを設けて掘り下げたところ、焼土粒子及び炭化物が微量に混じる明黄褐色土層の第3面から鉄製品3点が出土した。神社の構造物を伴わないことから、神社が築造される以前の段階、すなわち江戸前期または戦国期に遡ると推定されるが、上記の鉄製品の他に遺物が出土していないために、正確な年代を特定するのは困難である。

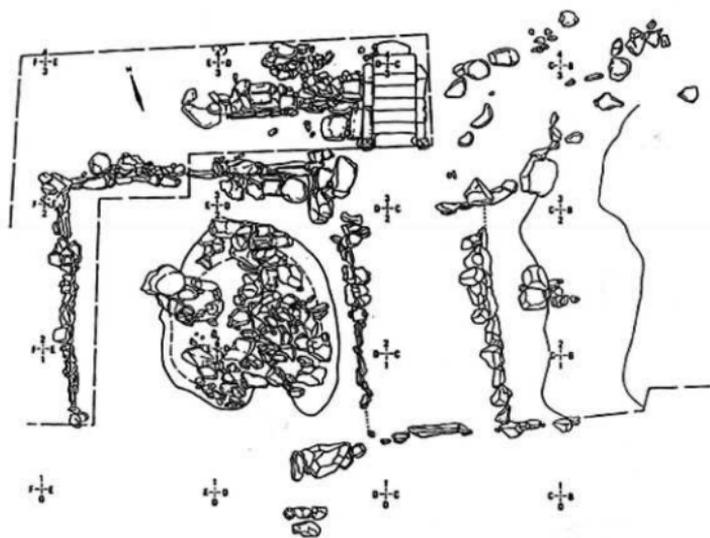
最下層の第3面からは、被熱礫を伴う焼土遺構も検出された。採金に伴う汰り滓(汰り分けした後に残るカス)ではないかと考え、周辺の焼土および炭化物を採取して化学分析に依頼したが、汰り滓の可能性は極めて低いという分析結果を得た。

今回の調査では、地元で「つつみの平」と呼ばれる尾根の調査も併せて実施し、この一帯に密集する露天掘り跡の図化を行った。さらに、金山金山経営者の子孫という星野五俊氏より、鉱山白(金スリ白)・磨り石・金ばさみ・轆等を借用して図化を行うとともに、金山に関連する墓石・石塔・石碑等の紀年銘についても可能な限り拓影して報告書に収録した。

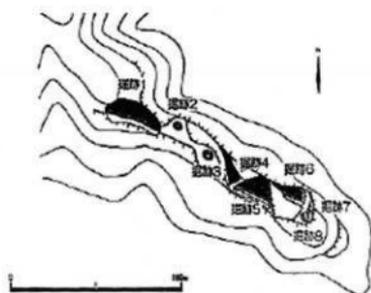
県内の金山の中で本格的な発掘調査が実施されたのは、下部町湯ノ奥金山、塩山市黒川金山等の大規模な金山に限られており、各地に多数分布する小規模な金山経営の実体についてはまだ不明な点が多い現状にある。その意味でも、今回の発掘調査は重要であり、同規模の金山における採掘の実態を解明する上でも、貴重な調査事例と考えられる。



金山金山遺跡位置図



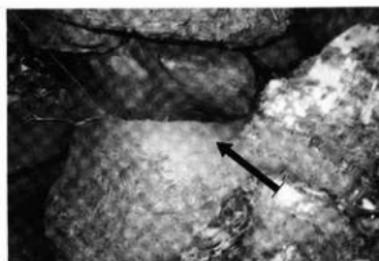
金山神社遺跡本殿前全体図



つつみの平掘跡図



本殿前石列出土状況



金スリ白出土状況



調査区周辺に残る坑口

## 10. 甲府城下町遺跡

所在地 甲府市北口2-11  
 事業名 立体駐車場建設  
 調査期間 平成13年11月1日から平成14年2月20日  
 調査面積 2,400㎡  
 担当者 小林広和・楠間美季江

遺跡は秩父山系から湧き出し、甲府市北部の山裾より盆地へ流れ込んでいる藤川・相川により形成された扇状地上（標高約282m）に位置している。東方に愛宕山（423m）と藤川があり、南には近世に甲府城が築城された一条小山と呼ばれる独立した丘陵が存在している。

調査は掘土の都合上、南北で二分し北側調査区と南側調査区と分け、面積約2,400㎡で実施した。その結果、遺構では井戸跡6基、溝状遺構9条、石積溝3条、土坑6基を確認した。1号井戸は円形を呈する素掘りの井戸で断面はロート状に掘り下げられている。2号井戸は上部は攪乱によって確認できなかったものの、円形を呈し、深さ約5mに達し、直径約1m、長さ約1m20cmの桶が5段重なった状況を検出した。3号井戸は円形を呈する素掘りの井戸で、ほぼ筒状に掘り下げられている。陶器類・木材製品を多く検出した。4号井戸は円形を呈する上部が石積の井戸で、石積下部約1mには径10cmほどの丸太材が東西に2本並んでいた。5号井戸は円形を呈する上部が石積の井戸で、ほぼ筒状に掘り下げられている。6号井戸においては筒状に掘り下げられており、2号井戸と同じ桶を1段底部から検出した。これらはいずれも井戸廃棄時に一挙に埋め戻しており、礫を多量に埋没するもの、使用品や土砂を同時に埋没するもの等、廃棄時において差異が認められる。溝状遺構においては、3号溝では長さ約40～50cmの等間隔に並んだ杭を検出した。4号溝では江戸時代後期から末期にかけての陶磁器類およそ480点を検出した。遺物は主に北側に集中して多量の木炭を混入する土層から出土しており、一括廃棄されたものと考えられる。石積溝では長径10～20cmの自然石が積まれており、石組の暗渠と考えられる。1・2・3号土坑は底部に拳大の礫が並べられており、円形を呈する。4号土坑は深さ約1m30cmを測り、円形を呈する。6号土坑は長方形を呈しており、底部からは板材を検出したが遺存状態は良くない。また特殊遺構としてL字型土坑を確認した。L字中央部からすり鉢片を、またL字底辺の底部からはかわらけ、内耳土器片を検出した。遺物から見て、江戸時代中期～末期と考えられる。

今回の調査において甲府城下町遺跡では、大量に出土した近世の陶磁器はこの地域における生活実態を解明する上でも重要であり、狭い敷地内に対する井戸の割合は極めて高く、いかに水が重要であったかが窺える。



甲府城下町遺跡位置図



2号井戸桶出土状況



北側調査区



調査風景



5号井戸・6号土壇遺物出土状況



L字型土壇遺物出土状況



6号井戸桶出土状況



2石積溝出土状況

## 11. 原町農業高校前遺跡

所在地 北巨摩郡長坂町塚川177ほか（峡北農校地内）  
 事業名 峡北地区総合学科高校（北杜高校）整備事業（グラウンド整備事業）  
 調査期間 2001年5月28日～12月21日  
 調査面積 14,000㎡  
 担当者 米田明訓・大柴鉄哉・浅川一郎・三田村美彦・正木季洋



原町農業高校前遺跡位置図

原町農業高校前遺跡は、長坂町塚川地内、標高約620mの地点に所在し、八ヶ岳南麓七里岩台地上の小尾根先端に位置する。尾根はその東西を、鳩川・宮川の流れる谷に挟まれ、日当たり

の良い緩やかな南側斜面となり、西には甲斐駒ヶ岳などの南アルプス連峰、東には金峰山や茅ヶ岳、南には富士山、北には八ヶ岳が望める大変見晴らしの良い所に遺跡は立地している。

遺跡は昨年度から本格的な調査が行われており、今年度は峡北農業高校の果樹園や牧草地として利用されていた場所を調査した。このうち果樹園として利用されていた調査区の北東側は大きな削平を受けており、何も検出されなかったが、他の箇所からは縄文時代や平安時代の遺構や遺物が検出された。とりわけ、縄文時代中期に比定されるものが圧倒的多数を占めている。

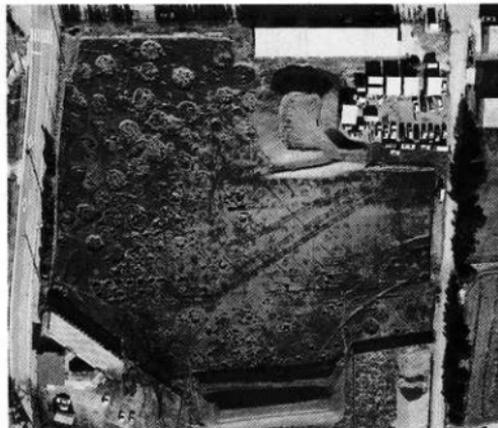
縄文時代の遺構は、縄文時代中期の竪穴住居跡102軒、土坑約420基が検出された。これらの遺構からは住居跡を中心に、縄文時代中期前半から後半にかけての上器が出土しており、本遺跡が縄文時代中期でも比較的長期に渡り集落が営まれていたことを示しており、その規模も考慮すると八ヶ岳南麓地域における縄文時代中期の拠点的な集落のひとつとして捉えることができる。

遺物は土器や石器を中心に整理箱で約500箱ほど出土しました。このうち注目されるものとして、装飾的な文様の描かれたほぼ完全形の深鉢形土器、顔面把手付深鉢形土器、大小の有孔鈎付土器、ミニチュア土器、土偶、器台、耳栓、ヒスイなどがあげられます。このうち土偶は約80点ほど出土し、八ヶ岳南麓地域の縄文時代中期の集落跡

では、非常に多くの土偶を出土した遺跡として評価できる。

集落構造をみると、住居跡は尾根の縁に沿って展開しており、土坑は住居と住居の間の空間に認められた。また、今回の調査では住居跡は調査区外の西側から南側にかけても広がる様相を呈しており、集落の範囲はさらに広がると考えられる。

平安時代では竪穴住居跡3軒、獨立柱建物跡2棟、溝状遺構1条が検出されている。これらの遺構はみな調査区の南東側で検出された。主たる遺物は土師器の坏や甕で、整理箱2箱ほど出土した。



調査区全景



49号住居跡遺物出土状況



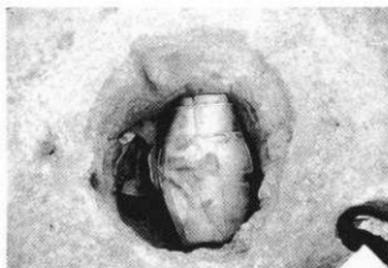
7号住居跡土偶出土状況



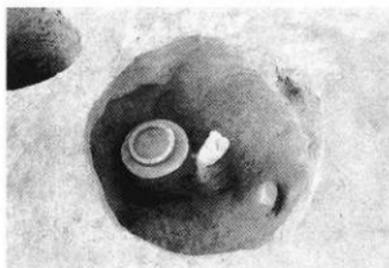
76号住居跡炉体土器出土状況



76号住居跡ミニチュア土器出土状況



5号住居跡有孔鏝付土器出土状況



90号住居跡器台出土状況



129号土坑顔面把手付土器出土状況



56号住居跡顔面把手付土器出土状況

## 12. 国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳

所在地 山梨県東八代郡中道町下曾根地内  
 事業名 史跡整備に伴う確認調査  
 調査期間 2001年10月9日～24日  
 2002年1月15日～28日  
 調査面積 3,000㎡  
 担当者 齊藤 伸・古岡弘樹



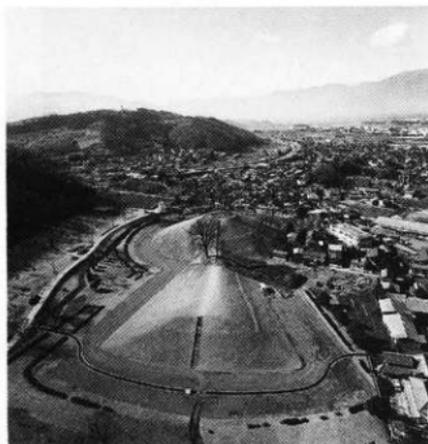
銚子塚古墳位置図

銚子塚古墳は曾根丘陵下方の傾斜変換線上(標高約260m)に位置し、東西方向に主軸をとる長さ約169mを測る前方後円墳である。かつて本古墳は伊勢講の信仰対象地とされ伊勢塚とも称されていた。昭和3年には伊勢講輦舎建設に伴い後円部に竪穴式石室が発見され、続いて多数の副葬品も出土している。石室は割石を使用し小口積りで後円部の中央に古墳主軸とほぼ直交するかたち構築されており、副葬品には、内行花文鏡、三角縁神人車馬画像鏡、三角縁三神三獣鏡など鏡5面、碧玉製車輪石、碧玉製石銅、勾玉類、管玉類、貝銅、鉄剣、鉄刀、鉄鏃、鉄斧、鉄鎌などがあげられ、それらは当墳の畿内的な様相を強める要因のひとつとなっている。なお、三角縁神人車馬画像鏡については岡山県車塚古墳、群馬県三本木古墳、福岡県藤崎遺跡出土の鏡と同范関係にあると言われている。

今年度は平成13年10月9日～24日と平成14年1月15日～28日の2期に分割して近年買収の進んだ西側および北側について墳端および周溝の確認調査が実施された。すべてのトレンチは重機を使用して掘り下げられ、その後、人力による精査を行い土層、墳端部、周溝等を確認した。また、トレンチの設定にあたっては、隣接する民家や地下埋設物等を考慮し、さらに防護フェンス等で調査区域を囲うなどの危険回避措置をとったことを付け加えておく。

平成13年10月分の調査は、西側に接する対象地に、後円部の主軸より15°ごとの放射状に5本のトレンチを設定し土層断面等の観察や墳丘端部の確認に努めた。また、平成14年1月分の調査は古墳北側、前方部と後円部の接合部に接する地点に大型のトレンチを2カ所を開口させた。

その結果、古墳本体側では周溝の立ち上がりが確認されたがアウトラインについては水道管の敷設や攪乱等の強い影響を受けていたため検出されなかった。遺物は周溝内に葦石が崩落してレンズ状に堆積した礫層から多数の埴輪片が出土した。器種は円筒・朝顔形埴輪、壺形埴輪の3種類であり、その割合は圧倒的に円筒・朝顔形埴輪が多く壺形埴輪は数点にとどまっている。また、以前に出土している同種の埴輪について巴形、方形、三角形の透かしが見られたが、今回出土したものは円筒・朝顔形埴輪にのみ方形および三角形の透かしが確認できている。いずれにせよ、すべて破片資料であるため現段階で全容が判断できるものは無い。しかしながら、過去の調査例などから4世紀後葉またはこれをややさかのぼる時期を想定しておきたい。



古墳全景

### 13. 甲府城跡

所在地 甲府市丸の内1丁目地内  
事業名 舞鶴城公園整備事業  
調査期間 2001年7月から継続中  
調査面積 約700㎡  
担当者 出月洋文・望月郁也・宮里学・宮久保真紀



甲府城跡位置図

本年度の甲府城跡（舞鶴城公園）では、稲荷櫓復元に伴い、土台にあたる櫓台石垣の解体調査および改修工事を実施した。調査は、平成13年7月に着手し同12月に完了し、翌月から現在改修を進めている。

稲荷櫓台石垣は、甲府城跡の北東にある石垣で、自然石または荒割りした石材を積み上げた野面積みの石垣である。高さは、根石（もっとも下の石）から約14mある。石垣の築かれた年代は、積み直しの可能性も一部あるが、積み方の特徴から約400年前の築城期の石垣と判断できる。

解体調査を実施するに至った経過は、櫓を復元するにあたり土台である石垣の外観観察をしたところ、石垣石材の割れが多く確認されたこと、複数の孕み（石垣の飛び出し現象）や窪みが観察されたこと、隅角部（東と北面のコーナー部分）の石材破損が目立ち稜線が変形しているなどの欠陥が確認でき、石垣を改修せずに櫓を復元するのは危険である判断したためである。

着手に際して、これまでの体制不備を反省し、県土木部との間に「舞鶴城公園稲荷櫓整備事業と県指定史跡甲府城跡発掘調査に関するマニュアル」を制定し、文化財専門職員を監督員として配置するなど改善を図った。

また、甲府城跡調査検討委員会の他に同委員3名で構成する石垣部会（専門部会）を設置し、調査・改修方法の指導を受けながら事業を進め、石垣の研修会、講習会なども実施し事業に臨んだ。さらに、現場関係者内では定期的な調整会議を開催し、円滑な事業推進と適切な文化財の取り扱いに留意した。

稲荷櫓台は平成8年にその天端（櫓台の上面）を発掘し、建物に関連する遺構と輪宝（地鎮具の一つ）を確認し、主に西・南の石垣の修復工事を実施した経過がある。今回の事業では、櫓台上面の未発掘調査部分と、平成8年の調査範囲を再発掘し、再調査を実施した。発掘調査の結果、櫓台上面の東側より新たに輪宝が1点出土し、本櫓台からは合計6点の輪宝が出土した。

石垣の解体調査は、石垣を1段ごとに解体し、石材の配置状況や破損状況と原因を調査しながら進めた。また、石材（詰石などは除く）については一石毎に名称（番号）を振り付け、寸法、重量、加工状況、破損状況、強度確認しつつ調査カードを作成記入しデータ収集をおこなった。さらに、記録として各段、各石材ごとに写真記録をおこない、必要に応じてビデオ撮影した。

北・東面の解体範囲は、石垣24段中15段目を目安に実施していたが調査の結果、石垣内部での石材の破損が激しく、極力石垣を残すという観点から解体範囲を抑え、傷みの激しい範囲のみ改修できるよう協議しつつ変更した。その結果、最終的には隅角部は23段目まで解体し、平均19～20段目および西・南面（一部を除く）とが解体範囲となった。

現在集計できている範囲での主な調査の結果成果については、石垣の東・北面の解体旧石材数は約1000石である。観察の結果、使用不可能な破損旧石材は400石以上で、新たな新補石材と交換することになる。破損原因は、石材に亀裂が観察された石材が最も多く、不安定な石材や風化も原因として挙げられ、外観観察では確認できない石垣内部での破損が目立つ。これらの破損旧石材は、加工して再利用するほか詰石、裏栗石、銅石として再利用している。

また、石材の大きさについては、天端から根石にむけて徐々に大きくなり傾向や、孕みの原因は不安定な積み方や背後の裏栗石が不十分であることなどが調査結果から理解することができる。盛土については、板状構造を

持つ明確な版築ではなく、起伏、傾斜、堆積厚の差はあるもののおおよそ水平な人工盛土であった。また、石垣中斷よりやや下がったレベルで自然地盤が露出した。この盛土変化点を境に裏栗石層の幅が狭くなり、石垣石材も寸法に乱れがでるなどの現象が確認できた。裏栗石については、割石と亜円礫の150<sup>3</sup>、内外のものが一般的であったが、小礫から人頭大の礫まで含まれている。この裏栗石層と盛土の境には人頭大の石材を配置するものが見られ、盛土の流出や盛土を叩き締める際の裏栗石との混合を防ぐ目的が想定される。

その他に、盛土の最下部では井戸が5基検出されており、築城以前に機能していたものと目下のところ判断できる。また、線刻画も128石で確認され、魚、井桁、×印などが確認でき、陰陽道の呪符の可能性を指摘することができる。

改修にあたっては、峡中地域振興局建設部・施工者・石工職人・石垣部会らで活発な検討、意見交換を進め、個々の石材がもっとも安定した据わりで、石垣が傷む原因となる積み方を避け強度・安全を確保しつつ、稲荷櫓台の石垣がもつ特徴（時代・地域性や積み方）を生かし元に戻していく手法で実施している。またその一環として、築城当時の技術についても検討・再現を現場作業終了後に実験し、3月23日(土)には400年前の伝統技術を復元し、矢（石を割るくさび）での石割りやコロを使っての石引き、二つ又とカグラサンで石を吊り上げる実演、フイゴでの道具の手入れなど体験してもらおうと、現場見学会・講演会を実施した。



解体前の櫓台東面



調査の結果破損が確認された石材



解体石材保管状況と石材観察作業



改修作業が進む櫓台東面



石垣部会の現地視察



伝統技術で石引を体験する子供たち

## 14-1. 埋蔵銭貨出土遺跡詳細分布調査

事業名 埋蔵銭貨出土遺跡詳細分布調査

調査期間 2001年4月1日～2002年3月31日

調査区域 県内全域

担当者 三森鉄治・網倉邦生

埋蔵銭貨出土遺跡詳細分布調査は、県内から出土した埋蔵銭貨に関する学術調査であり、国庫補助事業の一環として3年計画で調査を継続中の事業である。初年度に当たる平成13年度は、まず県内全域から出土した埋蔵銭貨に関する情報収集を行い、主に大量埋蔵銭貨（大量備蓄銭）および甲州金を中心とする銭貨の出土場所・出土地点の特定に努めた。その結果、文献調査・聴き取り調査によって、大量埋蔵銭貨の出土地16例と甲州金出土地3例が確認された。大量埋蔵銭貨の出土地は、塩山市千野、勝沼町上岩崎、一宮町竹原田・石・市之蔵、境川村石橋、昭和町義清神社、白根町大八田字小六科、長坂町東原浪田遺跡・小和田館跡（計3地点）、大泉村谷戸字城上、白州町白須馬場氏館跡、同町鳥原の教米石民部館跡、富沢町万沢、上野原町棚原、富士吉田市殿ノ入であり、甲州金は春日居町下岩下、勝沼町上岩崎、高根町村上西割である。こうした分布調査の結果を踏まえ、実地調査を行うとともに、出土銭貨を借用して整理作業を実施した。本年度に借用したのは、長坂町東原浪田遺跡、白根町大八田字小六科、上野原町棚原、勝沼町上岩崎等から出土した銭貨である。

借用した銭貨については、銭種ごとの分類・集計作業、拓影に加え、模範銭・欠け銭（周開が欠けている銭貨）や人為的に加工された銭貨（星形孔・穿孔）等に関する分別作業も併せて実施した。こうした綿密な分類によって得られた詳細データは、出土事例の性格や特質を究明する上でも極めて重要な資料と言える。



高根町村上西割出土金貨



富沢町万沢出土銭貨



高根町村上西割 金貨出土場所



白根町大八田小六科出土銭貨

## 14-2. 信虎誕生屋敷跡

所在地 春日居町下岩下573番地  
 事業名 信虎誕生屋敷発掘調査  
 発掘調査 2001年12月9日～2002年1月7日  
 調査区域 128㎡  
 担当者 三森鉄治・網倉邦生

信虎誕生屋敷跡は、春日居町下岩下に位置する。『菊蔭録』に武田信虎の母は岩下氏とあり、この地が国人領主岩下氏の居館跡と伝わることから、地元では信虎の誕生地と伝承される。調査区は、約80年前に金貨が3枚出土した地点の北東約200mに位置し、同一区画の東端に当たる。

発掘調査の結果、中世の遺構・遺物が検出された。遺構は、溝1条・土溝8基・柱穴と見られるピット9基等である。遺物は、瀬戸美濃の壺破片、かわらけ片、銅銭1枚（大聖元寶）、柱根の残部、齋串と見られる竹製品等である。溝には広範囲にわたって炭化物が厚く堆積し、ここから出土した瀬戸美濃の陶器片にも被熱の痕跡が見られた。

遺構は2面確認されたが、遺物の出土状況から判断すると、年代はどちらも中世であり、なかでも下層面は、金貨が出土した地層に対応する面と推測される。このことから、出土金貨の年代が中世にまで遡る可能性は極めて高くなったと言える。

本遺跡の周辺には、他にも中世の居館跡が多数分布するが、発掘調査によって実際に遺構の存在が確認されたのは本遺跡が初めてである。また、国府跡の候補地に比定される国府（こう）遺跡、県内最古の寺院跡とされる寺本庵寺跡とも隣接し、古代から中世に至る甲斐国の政治・経済の中心地に位置することから、県内の歴史を解明する上でも重要な発見と考えられる。



信虎誕生屋敷跡位置図



1号溝：柱根出土状況



1号溝：瀬戸・美濃陶器出土状況

## 15. 八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査他

### 15-1. 県営千塚西団地解体工事に伴う試掘調査

所在地 甲府市富士見2丁目地内  
遺跡名 千塚西団地遺跡(第1次)  
調査期間 2001年4月23日  
調査面積 15㎡(1,280㎡)  
担当者 笠原みゆき・勝俣 透

解体工事区の一部瓦礫をよけて2.5×3mのトレンチを2本入れ、重機で段階的に掘り下げ各段階で遺構・遺物の有無を確認した。隣接する音羽遺跡A区の標準土層に対応すると考えられる黒褐色粘質土層(遺物包含層)が地表下60cmに数cmほどの厚さで見られたが、遺構・遺物は確認できなかった。直下の層位は砂層だったが、さらに掘り下げると拳大以上の円礫を含む層が堆積しており、湧水をみた。黒褐色粘質土層が水田層である可能性はあるが、それ以外では遺構・遺物が検出される可能性は少ないと考えられる。



試掘調査位置図

### 15-2. 日本道路公団中部横断自動車道増幅インターチェンジ建設工事に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡増穂町青柳地内  
遺跡名 町屋口遺跡隣接地  
調査期間 2001年5月10日～5月25日  
調査面積 2,009㎡(33,000㎡)  
担当者 笠原みゆき・勝俣 透

釜無川右岸堤防下の現状の地形に合わせて長短26本のトレンチを設定し、重機で段階的に掘り下げ各段階で遺構・遺物の確認調査をおこなった。調査区の北側(1, 3, 4区)は、耕作土の直下に砂と粘土の堆積が交互に観察された。南側(2区)は、20cm前後の粘土層が平らに2～3面重なり、水田としての活用が長かったものと思われる。2区で建築部材を転用した板材・角材で護岸を施した水路跡がみつかったが、近世末以降の層にあたる青灰色土層中の遺構であった。遺物は近世末以降の陶磁器や畜串などが若干出土した。



試掘調査位置図

### 15-3. 県営千塚西団地解体工事に伴う試掘調査

所在地 甲府市富士見2丁目地内  
遺跡名 千塚西団地遺跡(第2次)  
調査期間 2001年5月28日  
調査面積 30㎡(1,430㎡)  
担当者 笠原みゆき・勝俣 透

千塚西団地解体工事の第2回目の試掘調査である。解体予定建物の南側に、長さ25m・幅1.2mのトレンチを1本設定し、重機で段階的に掘り下げ各段階で遺構・遺物の有無を確認した。トレンチ内は建物に付随するか、それ以前の構築物と思われるコンクリート基礎が長く壁状に埋められ全体に深く掘り込まれた状態で、深さ1.1mほどで礫層となり水が出た。わずかに東端で攪乱を受けていない土層が観察されたが、遺構と遺物は全く確認できず、埋蔵文化財の包蔵地とは確認できなかった。



試掘調査位置図

#### 15-4. 財務省関東財務局国家公務員宿舎改築工事に伴う試掘調査

所在地 甲府市武田3丁目5-23

遺跡名 武田城下町遺跡

調査期間 2001年6月27日～6月28日

調査面積 238㎡ (3,591㎡)

担当者 小林広和・勝俣 透・楠間美季江

平屋住宅解体工事の工程との調整をおこないながら、長短10本のトレンチを設定し、重機で段階的に掘り下げ各段階で遺構・遺物の有無を確認した。部分的に地表下10cmほどのところで戦中・戦後の建築物のものとみられる重厚なコンクリート基礎が検出され、深さが地表下1mに達するものもみられたほか、すべてのトレンチにおいて深く攪乱を受けたことを示す土層が確認された。中世の埋蔵文化財包蔵地内に当該試掘調査区は位置するが、遺構および遺物は認められなかった。



試掘調査位置図

#### 15-5. 国土交通省甲西バイパス取付道路工事並びに用水路整備工事に伴う試掘調査

所在地 中巨摩郡中巨摩郡八田村野牛島・石橋2771

遺跡名 野牛島・石橋遺跡

調査期間 2001年7月5日～7月6日

調査面積 21㎡ (127㎡)

担当者 小林広和・勝俣 透・楠間美季江

釜無川河岸段丘が御勅使川の水勢によって削られた南側の先端部分に位置し、北に向かい帯状に突出した地形を呈する調査区は八田村教委により、石積堤防の可能性が指摘されていた。約2m幅で2本のトレンチを設定して重機で段階的に掘り下げ各段階で土層を確認したところ、耕作土(客土)下は褐色土、さらにその下に砂礫の水平堆積がみられた。石積をはじめ堤防の築造に関わる人為的な土木作業のおこなわれた形跡は認められず、その他の遺構および遺物もみられなかった。



試掘調査位置図

#### 15-6. 山梨県土地開発公社宅地造成工事に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡身延町梅平字諸枯地内

遺跡名 諸枯遺跡

調査期間 2001年7月17日～7月18日

調査面積 150㎡ (5,400㎡)

担当者 小林広和・勝俣 透・楠間美季江

調査区北側と南側の宅地造成工事の中心箇所には2本のトレンチを設定し、重機で段階的に掘り下げ各段階で遺構・遺物の有無を確認した。全般に盛土層の下から更地にされる以前の建築物に伴う攪乱を受けた土層が確認され、堆積は1.5m程におよんだ。直下は北を流れる波木井川の旧河道と考えられる砂礫層が検出された。僅かに水田跡と思われる褐色粘質土層の堆積が部分的にみられたが、隣接する水田表面と水田確認面がほぼ同じ高さであり、古い時代の水田遺構とは認めがたい。他の遺構および遺物は皆無であった。



試掘調査位置図

### 15-7. 山梨県桂川ウェルネスパーク道路工事に伴う試掘調査

所在地 大月市富浜町鳥沢字西袴着地内  
遺跡名 西袴着遺跡（第1次）  
調査期間 2001年8月1日～8月2日  
調査面積 328㎡（3,640㎡）  
担当者 小林広和・勝俣 透・楠間美季江

調査区は眼下に中央道が東西に走る扇山の南西山麓に位置し、周辺には袴着遺跡などの散布地が知られる。長短9本のトレンチを設定し、重機で段階的に掘り下げ各段階で遺物・遺構の有無を確認した。全体的に褐色土が地表から30cm～60cmの厚さで堆積しており、最下層の小角礫（5～15mm）を多く含んだ黄褐色土層との間に小角礫を含んだ褐色土層がみられた。これらは山崩れにより形成されたものと思われる。一部でロームとみられる黄褐色土が認められたが、遺物・遺構とも検出されなかった。



試掘調査位置図

### 15-8. 国土交通省甲西バイパス建設工事に伴う試掘調査

所在地 中巨摩郡八田村野牛島地内  
遺跡名 横塚下遺跡  
調査期間 2001年9月5日  
調査面積 64㎡（1,530㎡）  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

調査区は釜無川にかかる双田橋に接するため、堤防遺跡の有無を確認することを主眼としてトレンチを3本設け、重機で段階的に掘り下げ各段階で調査をおこなった。すべてのトレンチにおいて、御動使川・釜無川の水勢に影響を受けた堆積が認められた。現堤防に近接するトレンチでは氾濫源の様相を呈した軟弱な砂層・礫層が観察された。逆さかると、耕作面の下に水平堆積した砂礫層と褐色土層の互層が認められ、微弱な流れにより形成された土層がみられた。堤防をはじめ遺構は検出されず、遺物も全く出土しなかった。



試掘調査位置図

### 15-9. 国土交通省大月バイパス建設工事に伴う試掘調査

所在地 大月市大月2丁目地内  
遺跡名 大月遺跡  
調査期間 2001年9月12日～9月20日  
調査面積 25㎡（3,400㎡）  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

大月遺跡の東隣、国道139号の走る断崖下に位置する調査区は、道路が狭窄で重機が進入できないため、トレンチはバイパス橋脚建設箇所3本とし、手掘りで掘り下げて調査をおこなった。各トレンチ共通して耕作土下は褐色系の砂が交互に平均して1m近く堆積し、さらに褐色土をはさんだ最下層に砂礫層が認められ、西隣を流れる桂川の影響を受けた様子がうかがえる。遺構は検出されなかった。遺物はわずかに縄文土器3片、土師器2片が出土したが、遺構を伴っておらず、桂川の流れがもたらしたものであろう。



試掘調査位置図

## 15-10. 県立葦崎工業高校校舎改築工事に伴う試掘調査

所在地 葦崎市竜岡町若尾新田50-1  
遺跡名 若尾新田堤防遺跡遺跡  
調査期間 2001年9月18日  
調査面積 約23㎡ (7,690㎡)  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

調査区は釜無川右岸堤防に隣接するため、堤防遺跡の有無を確認することを主眼とした。トレンチは建物基礎予定箇所の略に5本設置して、重機で段階的に掘り下げ各段階で遺構や遺物の有無を確認した。全般に旧校舎敷地整備のための盛り土の下が水田層で、釜無川氾濫に由来する軟弱な砂礫層がその下に極めて厚く堆積していた。地表下2.5mで水が湧出した。堤防をはじめとする遺構は、まったく検出されなかった。遺物も皆無であり、長らく一帯は旧河道、もしくは氾濫源の様相を呈していたものと思われる。



試掘調査位置図

## 15-11. 県営塩部第二団地建設工事に伴う試掘調査

所在地 甲府市塩部4丁目地内  
遺跡名 塩部第二団地遺跡  
調査期間 2001年10月1日  
調査面積 12㎡ (60㎡)  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

既存建物と重なる改築予定地の西側部分を除き、東側部分に2本のトレンチを設定して重機で段階的に掘り下げ各段階で調査をおこなった。各トレンチでは、盛土の下が泥流により形成された黄褐色粘質土、その下に湿地帯であったことを示す泥炭層の厚い堆積が認められた。盆地内でしばしば遺跡のみられる微高地状の地形は認められず、遺構の検出は皆無であり、遺物もまったくみられなかった。



試掘調査位置図

## 15-12. 山梨新環状線・西関東道路工事に伴う試掘調査

所在地 山梨市上岩下、東山梨郡春日居町下岩下地下内  
遺跡名 中川田遺跡・武家遺跡・中沢遺跡  
調査期間 2001年10月11日～11月2日  
調査面積 2124.45㎡ (69,535㎡)  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

兎山山麓の果樹地帯に位置し東西に延びる調査区に、長短120本のトレンチを設定し、重機で段階的に掘り下げて、遺物・遺構の有無を観察した。全体として耕作土の褐色土層下に、平等川の影響を受けた灰色系の砂・砂礫層のほか、広範囲で湿地帯を示す黒色粘質土の泥炭層が観察され、直上直下の層から湧水があった。埋蔵文化財の包蔵地である中川田遺跡にかかる範囲を含め、ほとんどの箇所遺構および遺物は確認されなかったが、同武家遺跡において弥生時代、同中沢遺跡において古墳時代以降の竪穴住居跡が各2・3軒、土器を伴って検出された。



試掘調査位置図

### 15-13. 山梨新環状線・西関東道路工事に伴う試掘調査

所在地 中巨摩郡玉穂町上三條字三宮司地内  
遺跡名 三宮司遺跡 (第1次)  
調査期間 2001年11月8日～11月9日  
調査面積 240㎡ (13,800㎡)  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

身延線を挟んだ道路用地に、おおよそ平行にトレンチ26本を設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺構、遺物の有無を確認した。甲府盆地南端の沖積地上のため、基本的には表土層を含めて砂層ないし砂質層で、間に草の腐植した黒褐色土層がみられ、厚くあるいは薄く、中には2層以上におたるトレンチもみられた。また、各トレンチにおいては、1～1.5mの砂礫層上で湧水のみた。遺構と思われるものは確認できなかった。遺物は線路西側で地表下1.8mの青灰色砂層中から、立木片とともに弥生土器とみられる破片が2点出土したのみである。



試掘調査位置図

### 15-14. 桂川ウェルネスパーク建設事業に伴う試掘調査

所在地 大月市富浜町鳥沢字西袴着地内  
遺跡名 西袴着遺跡 (第2次)  
調査期間 2001年11月13日～11月19日  
調査面積 762㎡ (12,300㎡)  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

眼下に中央自動車道が走る扇山南西山麓に位置する。トレンチ46本を設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺構、遺物の有無を確認した。土層は扇山に向かって左上方の一部が褐色土層(表土層)の下にロームが認められたのに対し、その他では褐色土層の下が純然たるはロームではなく、礫とロームとが混じるものであり、土石流の形跡をうかがわせる状況であった。遺構と思われるものは確認されなかった。遺物は、11号トレンチから縄文土器の小破片が1点のみ、発見された。



試掘調査位置図

### 15-15. 塩山東バイパス道路工事に伴う試掘調査

所在地 塩山市熊野1462ほか  
遺跡名 熊野遺跡  
調査期間 2001年12月4日～12月7日  
調査面積 180.9㎡ (4,187.5㎡)  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

道路用地に平行、あるいは直交するトレンチ21本を設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺構、遺物の有無を確認した。調査地の南端が重川に接する右岸の氾濫原にあたるため、土層は基本的には表土層を含めて砂層ないし砂質層である。各トレンチとも大きく耕作土、砂層(互層)、砂礫層の3層からなる。現在果樹園となっているが、耕作土直下などに鉄分の堆積がみられ、果樹以前の水田利用が確認できる。砂層の中に自然流路が確認されたが、遺構、遺物は確認できなかった。



試掘調査位置図

### 15-16. 山梨新環状線・西関東道路工事に伴う試掘調査

所在地 中巨摩郡玉穂町上三條字三宮司600ほか  
遺跡名 三宮司遺跡(第2次)  
調査期間 2001年12月10日～12月19日  
調査面積 1,312㎡(28,000㎡)  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

道路用地におおよそ平行にトレンチを20本設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺構、遺物の有無を確認した。甲府盆地南端の沖積地上のため、基本的には表土層を含めて砂層ないし砂質層で、中に葦の腐植した黒褐色土層もみられた。また、各トレンチにおいて70cm前後で礫層となり、かつ湧水を見た。自然流路の外は、遺構と思われるものは確認できなかった。遺物は少なく、自磁片、内耳土器が礫層中、かわらけ片、すり鉢、木片などが褐色ないし黒褐色土層(深さ40～50cm)から出土した。



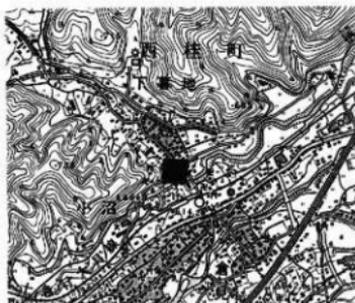
試掘調査位置図

木片などが褐色ないし黒褐色土層(深さ40～50

### 15-17. 桂川下水道発達基地建設事業に伴う試掘調査

所在地 南都留郡西桂町下暮地71ほか  
遺跡名 宮の前遺跡  
調査期間 2002年1月17日～1月18日  
調査面積 45.5㎡(625㎡)  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

建物予定地内に、トレンチを5本設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺構、遺物の有無を確認した。既に西側に接する民間の工場建設において、縄文時代後期の住居跡などが確認されている。1～4トレンチにおいて、地表下60cm前後で縄文時代後期の土器片を含む包含層(スコリア混入褐色土層で厚さ70cm前後)が確認された。また、2号トレンチの南端において第4層のローム層を切り込む溝状遺構が確認された。5号トレンチでは地表下40cmほどで包含層となり、この層から切り込む土坑が確認され、中より縄文時代後期の土器の大型破片が数点確認された。



試掘調査位置図

### 15-18. 塩山東バイパス建設工事に伴う試掘調査

所在地 塩山市赤尾字西畑651ほか  
遺跡名 西畑B遺跡  
調査期間 2002年2月13日  
調査面積 90㎡(1,200㎡)  
担当者 坂本美夫・勝俣 透

道路用地に沿ってトレンチを4本設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺構、遺物の有無を確認した。東側100mほどを流れる重川の右岸の氾濫席上であり、土層は基本的には表土層を含めて砂層ないし砂質層である。1.9m下で葦の腐植した黒褐色となる。また、砂層の中には、直径1mほどの巨礫が積み重なった部分もみられた。調査区はこれまで宅地であり、砂層を切り込むものは家屋に関わるもののみで、遺構、遺物はみられなかった。



試掘調査位置図

### 15-19. 山梨県利根川河川改修工事に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡増穂町春米字川久保地内

遺跡名 川久保遺跡

調査期間 2002年2月21日～2月26日

調査面積 307㎡ (11,340㎡)

担当者 坂本美夫・勝俣 透

調査区は利根川扇状地の扇頂部に位置する。新利根川堤防下整備予定地に任意のトレンチ18本を設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺構、遺物の有無を確認した。幾つかのトレンチで、自然の小谷、微高地などが確認された以外、土層が水平堆積をみせ、人工的に切り込んだ箇所は全くみられなかったが、遺物包含層とみられる礫混じりの黒褐色土中から、縄文土器の小破片が少量出土した。一方、増穂町教委により実施された本調査区域に接した18トレンチでは、縄文土器片が比較的集中して出土した。



試掘調査位置図

### 15-20. 桂川ウェルネスパーク建設事業に伴う試掘調査

所在地 大月市富浜町鳥沢字西袴着地内

遺跡名 西袴着遺跡 (第3次)

調査期間 2002年3月5日～3月15日

調査面積 620㎡ (20,000㎡)

担当者 坂本美夫・勝俣 透

眼下に中央自動車道が走る扇山南西山麓に位置する。トレンチ34本を設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺構、遺物の有無を確認した。土層は東西の勾配の緩い尾根状の調査区で褐色土層(表土層)の下にローム層が認められたが、中央部分では褐色土層下が礫とロームとが混じる層が観察され、土石流の形跡がかがえる状況であった。遺構と思われるものは確認されなかった。遺物は、わずかに縄文土器片が数点表面採取された。周辺に遺跡が存在する可能性は否定できない。



試掘調査位置図

## 15-21. 県庁舎改築に伴う甲府城跡楽屋曲輪の調査

所在地 甲府市丸ノ内1-6-1 県庁内  
遺跡名 県庁舎免震工事  
調査期間 2001年12月20日  
調査面積 15㎡  
担当者 保坂康夫・田口明子

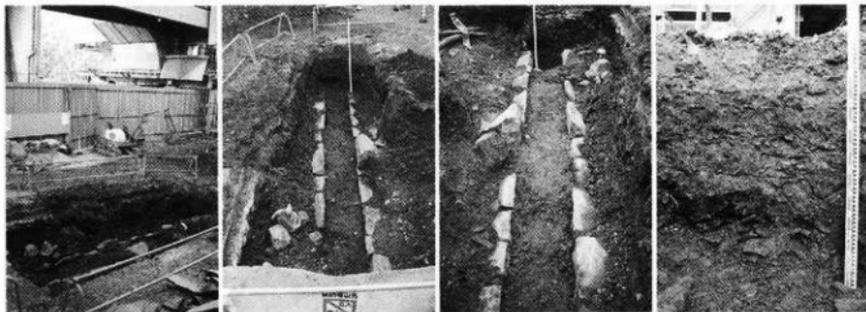


甲府城跡楽屋曲輪調査地点位置図

県庁舎の免震装置設置のための工事に伴う調査である。オイルタンク設置地点を学術文化財課で12月19日に試掘したところ、石積みの溝が確認された。オイルタンクは攪乱を受けた部分にずらして設置し、溝は埋設保存することとなったが、埋め戻す前に遺構の実測を行なうこととなり、埋蔵文化財センターが対応した。

調査地点は、県庁舎北側、旧館西側の通路部分。アスファルト舗装面から地下1.2mの深さで2列の石列が確認された。用材は甲府城跡石垣と同じ安山岩で、確認面で最大長が30～80cm程度で奥行20～30cm程度の加工礫である。平坦な広口面を溝側に立てて設置している。その広口面は自然面で、奥行部分に加工が加えられていた。加工時に出たと思われる礫片が裏込めに一部利用されていた。また、配列させた大型礫の間に、小礫をかませている部分もある。調査地区の北端で、溝の底部を確認したところ、確認した石列の上面から50cmで底面に達した。その部分の大型礫は広口面が80×50cmの長方形と考えられる。西側石列の上面は平坦であるが、東側では平坦面を持つものでも狭く、大半の礫背面が傾斜している。西側石列の中央部に二段目の大型礫が一個だけ残存していた。西側の石列上面が平坦なのは、二段目の礫が乗っていたからである可能性がある。二段目の礫背面が傾斜しており、三段目はなかった可能性も考えられる。また、西側は二段目が乗っていない可能性も考えられる。石列上面は中央部より最も低く、北側が最も高い。石列は石列上面がやや浮く程度の深さまで石炭ガラなど人為的に持ち込まれたと思われる土層で埋まっていた。南側では石列を厚さ40cmの瓦層が覆っている。出土遺物は、近世以降の染め付けやガラス瓶、瓦などである。

調査地点は楽屋曲輪の西端中央付近で、堀に面して構築された土塁の東斜面端部にあたると思われる。おそらく、土塁の裾部に設置された溝と思われる。

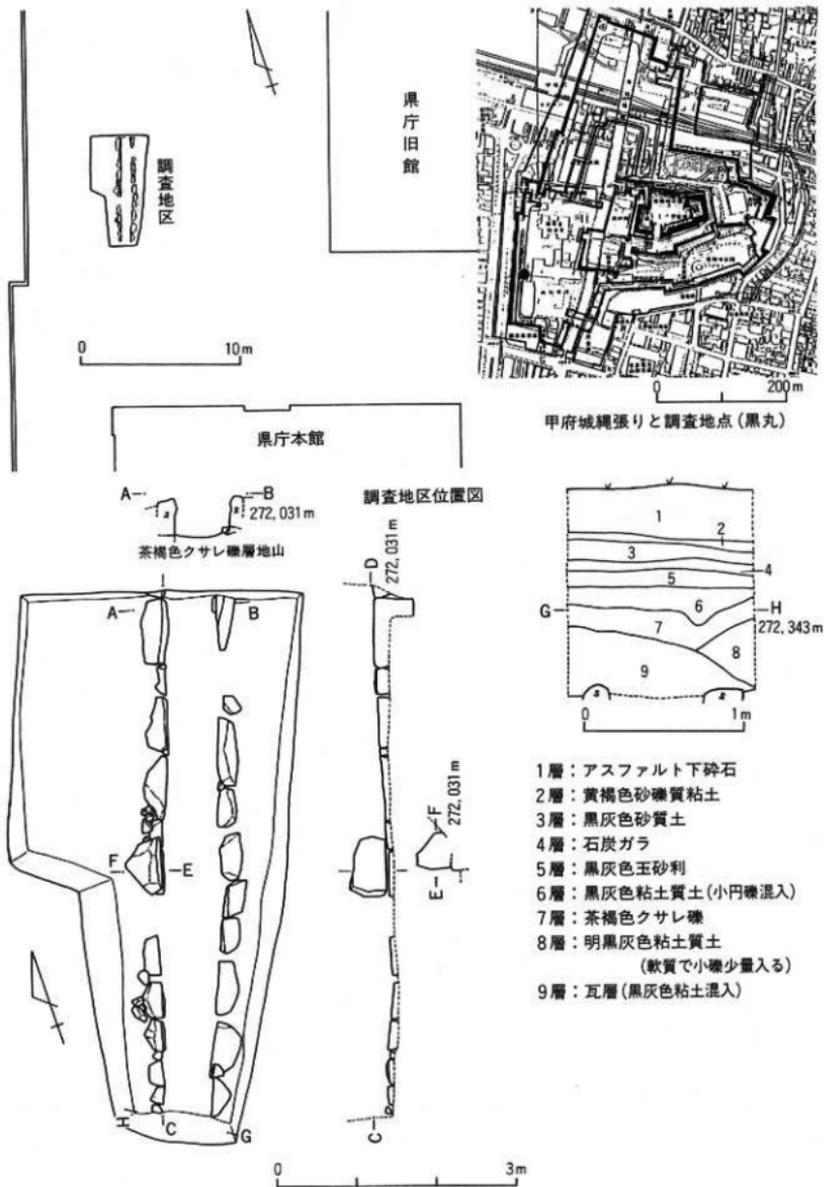


調査地区近景

石列（北から）

石列（南から）

南壁断面



## III 県内の概況

### 1. 発掘調査

2001年度に実施された県内の発掘調査件数は、武掘調査を含めて190件となっている。その内訳は、県が31件・市町村が158件・その他が1件である。発掘調査の原因は、河川1件、工場1件、学校2件、住宅35件、区画整理8件、ガス9件、農業関連13件、その他開発19件、宅地造成31件、その他建物25件、道路39件といった緊急調査と、4件の学術調査や3件の遺跡整備があった。

### 2. 発掘調査の成果と保存整備事業

長坂町では、原町農業高校前遺跡と段道(だんどう)遺跡がある。これらの遺跡は縄文時代の中期の遺跡である。段道遺跡で発見された住居跡は、重複することなく確認され、極めて短期間で営まれた遺跡としてとらえられており、この時期の生活状況を知る上で注目されている。

葦崎市では、新府城本丸跡から石垣や石築地など石を使った構造物が見つかった。このことは、今まで新府城は石垣などは使用せず、土塁を巡らせただけの城ではないかと考えられていたが、今回のこの調査によって石垣も使用していたことが明らかにされた。これらの石垣は、館などの塀の下に設けられたものと思われ、築城形態や技術を解明する上で重要な手掛かりとなった。

春日居町では、守本庵寺跡の南側の畑から、寺域の境界を示す溝跡が見つかり、寺の範囲がこれまで考えられていた以上に広がる可能性がでてきた。また、この溝には、石がきれいに敷き詰められており寺域と外を分ける堀のようなものだったと考えられている。

北都留郡丹波山村では、戦国時代の武田領国の金山跡が、県史編さん委員会などの踏査で確認された。金山があったことを推測させる古文書は見つかったが、鉱石を粉砕する臼などが発見されたことによって、金山の場所が特定されたことは記憶に新しい発見である。

また、県指定文化財(有形文化財)として「大善寺山門」(勝沼町)と「湯之奥金山鉱山道具及び関係資料一括」(下部町)を新たに指定した。「大善寺山門」は、二階二重門と呼ばれる県内でも少ない造りであり、一部の材を取り替えた以外は当時の形式と材料がそのまま使われている貴重な建造物である。

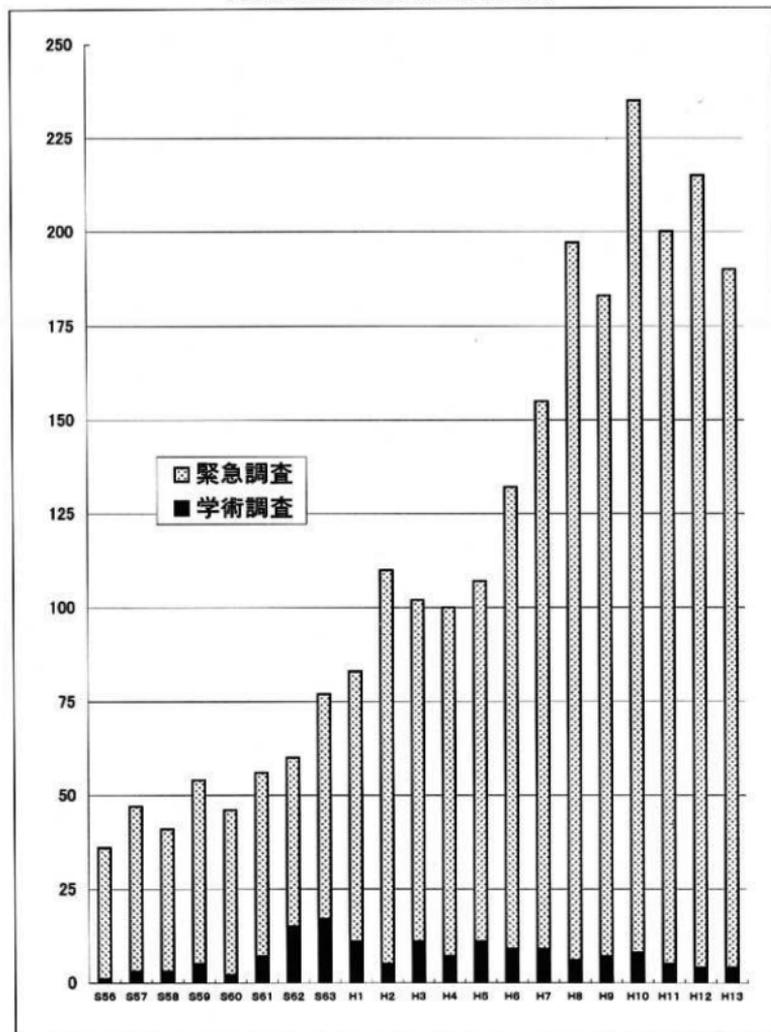
「湯之奥金山鉱山道具及び関係資料一括」の資料は、総数1510点が指定された。遺跡は、国指定史跡として指定されており、今回は道具及び関連資料を県指定とした。指定された道具には、鉱石を粉砕した石臼や磨り石等、関連資料として金を採取するのに使用した「ふね・せり板」などがある。今後も更に調査・研究を進め、文化財の保護・保存をはかっていく予定である。

### 3. 調査体制

埋蔵文化財専門職員(埋蔵文化財担当および担当可能職員)について、県では学術文化財課5名(うち博物館建設室1名)、埋蔵文化財センター33名(うち非常勤嘱託3名、臨時職員1名)、考古博物館2名(他に非常勤嘱託1名)、市町村では、甲府市7名、葦崎市2名(他に非常勤嘱託1名)、一宮町1名、御坂町1名、八代町2名、長坂町1名(他に臨時職員1名)、塩山市、山梨市、都留市、勝沼町2名、牧丘町、春日居町、石和町、境川村、中道町、豊富村、三珠町、増穂町、甲西町、檜形町、敷島町(他に非常勤嘱託1名)、玉穂町(非常勤嘱託1名)、若草町(昭和町と共同設置)、八田村、白根町、双葉町、須玉町、明野村(他に文化財調査員2名)、高根町、大泉村2名、白州町、武川村(他に臨時職員1名)、小淵沢町、上野原町に各1名となっており、64市町村のうち38市町村に埋蔵文化財担当者が配置されている。

(学術文化財課)

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移



年度	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13
学術調査	1	3	3	5	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9	9	6	7	8	5	4	4
緊急調査	35	44	38	49	44	49	45	60	72	105	91	93	96	123	146	191	176	227	195	211	186
合計	36	47	41	54	46	56	60	77	83	110	102	100	107	132	155	197	183	235	200	215	190

2001年度発掘調査一覧表

No.	遺跡名	市町村	面積	遺跡の種類	遺跡の時代	調査日約	調査主体等	調査期間
1	武田城下町遺跡	甲府市大淵町88-1	142.10	その他の遺跡 城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H13.9.26～H13.11.26
2	平林遺跡	北巨摩郡明野町上平8246-1	624.00	集落跡	縄文	個人住宅	甲府市教育委員会	H13.1.16～H13.1.16
3	樺之木遺跡	北巨摩郡明野町北形9269-2215外	36.000.00	集落跡	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H12.10.1～H13.3.30
4	杉下遺跡	中巨摩郡萩原町上本351-1外	337.40	散居地	奈良・平安時代	その他	甲府市教育委員会	H13.4.9～H13.5.31
5	武田城下町遺跡	甲府市武田4-28, 29, 35	2,342.17	その他の遺跡 城下町	中世	その他の建物	甲府市教育委員会	H13.4.3～H13.4.6
6	甲府城下町遺跡	甲府市西1-1-1	435.54	その他の遺跡 城下町	縄文	その他の建物 倉庫跡	甲府市教育委員会	H13.1.16～H13.1.25
7	平林遺跡	北巨摩郡明野町上平8123番地外	20.00	集落跡	縄文	その他の建物 跡大木梢	甲府市教育委員会	H13.5.10～H13.5.23
8	平林遺跡	北巨摩郡明野町上平9343番地外	33.000.00	その他の遺跡	その他不明	跡大木梢	甲府市教育委員会	H13.5.14～H13.7.16
9	町尾遺跡	南巨摩郡明野町大字25番地原山内域	1,200.00	集落跡	縄文	宅地造成	山梨県教育委員会	H13.4.16～H13.4.25
10	仙山遺跡	東八代郡朝日町大字2525番1外	3,647.00	集落跡	古墳・奈良・平安	宅地造成	山梨県教育委員会	H13.4.12～H13.9.30
11	寺部村跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	4,500.00	集落跡	古墳・奈良・平安	跡大木梢	山梨県教育委員会	H13.6.18～H13.8.17
12	寺部村跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	1,000.00	その他	平安・室町	跡大木梢	山梨県教育委員会	H13.6.18～H13.8.17
13	北山山田遺跡	南巨摩郡朝日町大字1525番1外	13,300.00	その他の遺跡	古墳・奈良・平安	跡大木梢	山梨県教育委員会	H13.6.18～H13.8.17
14	麻沢川岸遺跡	南巨摩郡朝日町大字1525番1外	14,800.00	その他の遺跡	古墳・奈良・平安	跡大木梢	山梨県教育委員会	H13.6.18～H13.8.17
15	原町遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	2,400.00	散居地	平安・室町	跡大木梢	山梨県教育委員会	H13.6.18～H13.8.17
16	北河原遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	2,850.00	散居地	平安・室町	跡大木梢	山梨県教育委員会	H13.6.18～H13.8.17
17	内山帯2遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	50.00	散居地	縄文・弥生・古墳	宅地造成	山梨県教育委員会	H13.6.9～H13.6.9
18	内山帯2遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	30,064.36	散居地	平安	宅地造成	山梨県教育委員会	H13.5.24～H13.5.24
19	五反野遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	2,000.00	散居地	平安	宅地造成	山梨県教育委員会	H13.4.4～H13.3.20
20	北河原遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	339.00	散居地	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.4.4～H13.3.20
21	山田山田遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	573.00	散居地	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.4.4～H13.3.20
22	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	251.83	散居地	古墳・奈良・平安・中世	その他の遺跡 礎石作り分露	山梨県教育委員会	H13.4.16～H13.5.18
23	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	1,000.00	集落跡	中世	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.5.25～H13.5.25
24	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	2,500.00	集落跡	古墳・奈良・奈良・奈良・平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.6.11～H13.8.10
25	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	3,501.41	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.6.18～H13.12.28
26	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	951.87	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.6.27～H13.6.29
27	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	97.00	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.5.10～H13.5.10
28	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	255.28	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.5.25～H13.5.25
29	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	283.22	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.5.25～H13.5.25
30	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	873.00	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.5.30～H13.5.30
31	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	160.00	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.3.31～H13.6.4
32	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	160.00	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.3.31～H13.6.4
33	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	1,195.00	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.6.15～H13.6.15
34	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	1,733.60	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.6.11～H13.6.30
35	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	1,733.60	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.6.11～H13.6.30
36	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	234.36	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.6.12～H13.6.12
37	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	334.95	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.6.7～H13.6.7
38	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	1,000.00	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.6.4～H13.7.27
39	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	263.65	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.5.14～H13.5.20
40	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	799.00	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.4.17～H13.4.19
41	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	347.23	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.4.18～H13.4.18
42	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	258.70	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.4.2～H13.10.31
43	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	2,000.00	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.3.29～H13.3.31
44	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	1,950.00	集落跡	平安	個人住宅	山梨県教育委員会	H13.4.9～H13.4.9
45	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外	91.00	散居地	縄文	道路	山梨県教育委員会	
46	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外		散居地	縄文	道路	山梨県教育委員会	
47	倉地遺跡	北巨摩郡朝日町大字1525番1外		散居地	縄文	道路	山梨県教育委員会	

№	遺跡名	市町村	面積	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体等	調査期間
48	武山遺跡	中津市影形1-2021-2	411.39	縄下層	中世	集落宅	中津市教育委員会	H13.4.16～H13.4.16
49	肥前野下町遺跡	北江津郡大森村谷戸2505	1,220.00	弥生時代	中世	保存目的の遺跡確認	大森村教育委員会	H13.4.1～H13.4.9
50	寺所野2遺跡	北江津郡大森村赤井山2965-5	960.00	弥生時代	縄文	保存目的	寺所野教育委員会	H13.4.11～H13.5.11
51	野老遺跡	中津市東条町3-1743-1	1,899.65	弥生時代	古墳・平安	宅地造成	中津市教育委員会	H13.6.25～H13.7.6
52	野老遺跡	中江津郡八井町野老1、石積2771	127.00	その他の遺跡・防衛	中世・近世	宅地造成	山梨県教育委員会	H13.7.5～H13.7.6
53	宮内遺跡	大目町遺跡東側560ヶ所	300.00	弥生時代	縄文	宅地造成	大目町教育委員会	H13.8.8～H13.6.12
54	二ツ木遺跡	北江津郡須賀町藤原2ツ木668-1外	2,385.00	弥生時代	平安・中世	防錆	須賀町教育委員会	H13.5.14～H13.6.8
55	坂神子土壘下遺跡	北江津郡須賀町神子土壘小林3134-1外	8,360.00	弥生時代	弥生・古墳・奈良・平安	防錆	須賀町教育委員会	H13.6.5～H13.7.10
56	坂神子土壘下遺跡	北江津郡須賀町2丁目神子土壘	4,840.00	弥生時代	古墳・中世	防錆	須賀町教育委員会	H13.7.19～H13.7.19
57	坂神子土壘下遺跡	須賀町須賀町2丁目神子土壘	5,600.00	弥生時代	不明	宅地造成	山梨県教育委員会	H13.7.17～H13.7.18
58	手白尾遺跡	北江津郡須賀町手白尾175-811外	1,215.00	弥生時代	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	宅地造成	須賀町教育委員会	H13.7.11～H13.7.12
59	新沢遺跡	中津市朝沢1丁目2141-14外	233.57	弥生時代	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	中津市教育委員会	H13.7.9～H13.7.23
60	新沢遺跡	中津市朝沢1丁目2141-14外	425.00	弥生時代	近世	防錆(青うが、電気・水道)	新沢町教育委員会	H13.7.25～H13.7.25
61	かすみ尾遺跡	中江津郡須賀町西条字大6681-1	31.00	その他の遺跡	古墳・平安・中世	防錆(青うが、電気・水道)	須賀町教育委員会	H13.6.7～H13.7.19
62	かすみ尾遺跡	中江津郡須賀町西条字大1505-4	250.00	弥生時代	古墳	個人住宅	須賀町教育委員会	H13.7.18～H13.7.19
63	かすみ尾遺跡	中江津郡須賀町西条字大1505-4	60.00	弥生時代	平安・中世・近世	個人住宅	須賀町教育委員会	H13.7.24～H13.7.27
64	竹之花遺跡	中江津郡須賀町竹之花383外	2,676.67	弥生時代	縄文・平安	遺跡	須賀町教育委員会	H13.8.1～H13.8.2
65	竹之花遺跡	中江津郡須賀町竹之花383外	50.00	弥生時代	その他	その施設周辺調査	山梨県教育委員会	H13.8.1～H13.8.31
66	新所野遺跡	北江津郡須賀町新所野610-1外	3,640.00	弥生時代	縄文・平安・中世	宅地造成	八原町教育委員会	H13.7.26～H13.8.31
67	新所野遺跡	北江津郡須賀町新所野610-1外	768.50	弥生時代	その他	宅地造成	八原町教育委員会	H13.7.26～H13.8.31
68	西高屋遺跡	北江津郡須賀町西高屋383外	2,676.67	弥生時代	平安・中世・近世	宅地造成	山梨県教育委員会	H13.7.23～H13.11.30
69	六科・宮内遺跡	中津市八井町六科字材木283外	440.00	弥生時代	近世	遺跡	山梨県教育委員会	H13.8.6～H13.10.5
70	宮内遺跡	中津市八井町丸の内1-5	1,300.00	弥生時代	平安・中世	遺跡	山梨県教育委員会	H13.9.11～H13.9.14
71	宮内遺跡	中江津郡須賀町高屋内	750.00	その他の遺跡・防衛	その他	遺跡	山梨県教育委員会	H13.9.11～H13.9.14
72	横尾上遺跡	中江津郡須賀町横尾上	3,400.00	弥生時代	縄文	遺跡	山梨県教育委員会	H13.9.15～H13.9.15
73	大川遺跡	本宮町丸内二丁目400外	89.00	弥生時代	古墳	遺跡	本宮町教育委員会	H13.7.32～H13.8.31
74	松ノ尾遺跡	中江津郡須賀町中下条字田1830	440.00	弥生時代	古墳・奈良・平安・中世	宅地造成	須賀町教育委員会	H13.7.32～H13.8.31
75	三郷家遺跡	中江津郡須賀町中下条1655外	440.00	弥生時代	古墳	宅地造成	須賀町教育委員会	H13.7.32～H13.8.31
76	米地遺跡	須賀町須賀町北郷字米地504	1,352.58	弥生時代	古墳	宅地造成	須賀町教育委員会	H13.8.9～H13.8.8
77	中野遺跡	中津市北口13	4.00	縄下層	近世	個人住宅	中津市教育委員会	H13.7.31～H13.8.2
78	中野遺跡	中江津郡須賀町電王町野下八幡地内	10.00	弥生時代	近世	ガス	電王町教育委員会	H13.7.31～H13.8.1
79	八幡遺跡	中江津郡須賀町電王町野下八幡地内	5.00	弥生時代	近世	ガス	電王町教育委員会	H13.8.3～H13.8.31
80	神田遺跡	中江津郡須賀町電王町野下八幡地内	20.00	弥生時代	近世	ガス	電王町教育委員会	H13.7.31～H13.8.31
81	山宮遺跡	中江津郡須賀町電王町野下八幡地内	86.00	弥生時代	奈良・平安・中世	その施設周辺調査	中江津町教育委員会	H13.8.17～H13.9.14
82	外河原ノヤ遺跡	中江津郡須賀町289-1外	19,272.00	弥生時代	奈良・平安	その施設周辺調査	中江津町教育委員会	H13.8.27～H13.8.30
83	武甲遺跡	中江津郡須賀町329-1	1,331.00	その他の遺跡	中世	集合住宅	中江津町教育委員会	H13.8.24～H13.8.27
84	藤子尾風見遺跡	北江津郡須賀町三ツ木内	27.00	弥生時代	中世	遺跡	須賀町教育委員会	H13.8.24～H13.8.27
85	甲府遺跡	北江津郡須賀町丸の内1-227	696.69	弥生時代	近世	その施設周辺調査	中江津町教育委員会	H13.8.20～H13.8.20
86	富士山山頂山頂遺跡	富士山山頂上町字跡場1-5603	64.00	その他の遺跡・防衛	近世	遺跡	富士山山頂上町教育委員会	H13.8.27～H13.9.30
87	茶屋新田遺跡	平海町茶屋新田町茶屋新田50-1	7,690.00	弥生時代	その他・中世	学校施設	山梨県教育委員会	H13.9.18～H13.9.19
88	藤子尾風見遺跡	須賀町須賀町62-830-2	314.66	弥生時代	古墳・奈良・平安	個人住宅	須賀町教育委員会	H13.8.24～H13.8.24
89	武田遺跡	中津市八井町164-1	4.00	その他の遺跡・防衛	中世	個人住宅	須賀町教育委員会	H13.8.22～H13.8.21
90	武田遺跡	中津市影形1-1504-2	8.00	弥生時代	中世	個人住宅	須賀町教育委員会	H13.9.16～H13.9.7
91	本郷遺跡	中津市菅光寺2-252-8	2,279.00	弥生時代	縄文	宅地造成	中津市教育委員会	H13.7.19～H13.7.25
92	菅木遺跡	北江津郡須賀町長坂1-325-1	1,027.00	弥生時代	縄文	個人住宅	長坂町教育委員会	H13.7.19～H13.7.14
94	大畑ノヤ遺跡	北江津郡須賀町大畑町大字大畑3832-1外	5,390.00	弥生時代	平安	その施設周辺調査	上野原町教育委員会	H13.9.29～H13.12.31
95	柳井ノヤ遺跡	北江津郡須賀町大畑町大字大畑2106外	252.00	弥生時代	平安	ガス	上野原町教育委員会	H13.9.13～H13.9.14
96	小坂遺跡	北江津郡大森村谷戸平ノ里6557	2,671.00	弥生時代	縄文	宅地造成	大森村教育委員会	H13.7.5～H13.7.5



No.	通 称 名	町 町 村	面 積	通 路 の 種 類	選 路 の 時 代	開 工 日 的	調 査 期 限
147	六の南通路	南陽郡西郷町下郷2丁目	625.00	敷設路	縄文・古墳・平安・近世	その直前開下水道	H14.1.17~H14.11.17
148	長崎通路	東八代郡八代町南12丁目	49.50	敷設路	縄文・古墳・平安・近世	集約宅	H13.12.19~H13.12.27
149	清布通路	北八代郡長瀬町中19-66	3,254.00	改築路	縄文	その直前開下水道	H14.1.9~H14.1.19
150	国分古墳跡	東八代郡一宮町分子島969-3	1,008.00	古墳	縄文	急傾斜地事業	H13.12.3~H14.3.31
151	金山通路	東八代郡一宮町野原内4	1,700.00	敷設路	縄文・古墳・古墳	急傾斜地整備事業	H13.12.10~H14.3.31
152	北山通路	東八代郡現田町字西944-3	15.00	敷設路	縄文・古墳・古墳	個人住宅	H13.12.31~H13.12.21
153	氷石通路	東八代郡現田町小田12外	215.00	敷設路	縄文・古墳	宅造成	H13.12.19~H13.12.19
154	南陽通路	甲府市東川1-256-11外	1,210.00	改築路	平安	道路	H14.1.15~H14.3.31
155	春日中山通路	甲府市西沢5-501-262	156.71	改築路	中世・近世	個人住宅・墓跡	H14.1.25~H14.3.31
156	北山通路	北山郡御油町春日3009外	900.00	敷設路	縄文・古墳	道路	H14.2.12~H14.3.31
157	小川通路	北山郡御油町春日429外	1,000.00	敷設路・築路	縄文・平安・中世	急傾斜地整備事業	H13.12.17~H14.3.31
158	中原通路	甲府市南沢1189-5	182.64	改築路	縄文・古墳・古墳・奈良・平安	個人住宅	H14.2.4~H14.2.6
159	東山通路	東八代郡現田町字西2772	62.00	敷設路	縄文・平安	急傾斜地整備事業	H14.2.7~H14.2.11
160	北山通路	北山郡御油町長久山6811-371	989.00	敷設路	縄文・平安	個人住宅	H14.1.16~H14.1.16
161	長久保通路	南八代郡長瀬町大田山字東山1275-1	1,440.00	敷設路	弥生・古墳	道路	H14.1.16~H14.1.16
162	細田通路	北山郡御油町字西内4	1,200.00	敷設路	縄文・中世	道路	H14.2.12~H14.2.13
163	下長崎通路	中国東部八代町村外	17,465.00	敷設路	中世・近世	道路	H14.2.13~H14.2.13
164	長崎通路	東八代郡八代町本井1665外	617.00	敷設路	縄文・弥生・古墳・平安・中世	個人住宅	H14.2.4~H14.3.15
165	中込通路	甲府市東川573-786-3	178.62	敷設路	縄文・平安	個人住宅	H14.1.31~H14.3.29
166	平山通路	北山郡御油町町下今井字大馬場尾228外	436.00	小川	古墳	保存目的掘削調査・砂掘	H14.2.13~H14.2.14
167	川久保通路	中国東部御油町長江字平山5091	720.00	敷設路	縄文・平安・中世	急傾斜地整備事業	H14.2.18~H14.2.20
168	御油通路	甲府市御油中1-1	2,565.00	敷設路	縄文・平安・中世	急傾斜地整備事業	H13.10.9~H13.11.11
169	川久保通路	東八代郡御油町下黒坂411-412	89.67	敷設路	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	H14.2.12~H14.3.31
170	御油通路	北山郡御油町春日25-1	1,356.00	敷設路	縄文・平安	宅造成	H14.2.22~H14.2.22
171	川久保通路	北山郡御油町春日字久保内1	3,175.00	その他の通路	古墳・奈良	その地蔵物	H14.2.26~H14.3.5
172	武山下町通路	甲府市小坂町1-12	11,340.00	その他の通路	不明	公共施設	H14.2.13~H14.2.14
173	水井通路	甲府市小坂町427-1	180.13	敷設路	縄文・中世	個人住宅	H14.2.19~H14.2.19
174	上郷通路	中国東部御油町町下今井字1種504-2	310.69	敷設路	古墳・平安	個人住宅	H14.2.22~H14.2.22
175	上郷通路	中国東部御油町町下今井字1種504-2	5,431.00	敷設路	古墳・平安	土地区画整理	H14.2.25~H14.3.31
176	将道通路	山梨市上毛字トブテ2999外	600.00	敷設路	平安	道路	H13.12.17~H14.3.28
177	将道通路	中国東部御油町中込内1	3,378.00	敷設路	近世・近現代	道路	H14.3.5~H14.3.15
178	小瀬川通路	甲府市小瀬町字北郷内500-4	287.68	敷設路	古墳・平安	個人住宅	H14.3.5~H14.3.15
179	尻野谷川通路	北山郡御油町上見1-642外	325.01	敷設路	古墳・平安	集合住宅	H14.3.4~H14.3.8
180	尻野谷川通路	北山郡御油町上見1-642外	304.00	敷設路	古墳・平安	保存目的掘削調査・整備	H14.3.4~H14.3.20
181	尻野谷川通路	北山郡御油町上見1-642外	10.00	不明	不明	学術研究	H14.2.20~H14.2.20
182	小瀬川通路	甲府市御油1-2069-3	278.49	不明	中世	古墳	H14.3.13~H14.3.15
183	上の谷通路	中国東部御油町町下今井字641-4外	105.00	敷設路	古墳・平安	宅造成	H14.3.8~H14.3.27
184	西村通路	中国東部御油町町下今井字1011外	5,000.00	敷設路	縄文・平安・中世	道路	H14.3.8~H14.3.27
185	川久保通路	甲府市高沢町尻野谷村西谷内	24,000.00	その他の通路	不明	公共施設	H14.3.3~H14.3.29
186	川久保通路	中国東部御油町春日47外2025	808.00	敷設路	近世	土地区画整理	H14.3.3~H14.3.15
187	武山下町通路	甲府市小坂町3147	659.00	敷設路	中世	個人住宅	H14.3.6~H14.3.31
188	東川通路	北山郡御油町御油西谷1361-1外	500.00	敷設路	中世	道路	H14.3.14~H14.3.20
189	御油通路	北山郡御油町御油西谷1361-1外	2,000.00	敷設路	縄文	中国東部御油町	H13.11.28~H14.3.11
190	上郷通路	中国東部御油町町下今井字2509-1	2,000.00	敷設路	縄文・平安・近世	急傾斜地整備事業	H13.10.5~H14.3.4
191	山の特殊通路	北山郡御油町町下今井字2509-1	1,748.00	その他の通路	その他	土地区画整理	H14.1.17~H14.2.28
192	山の特殊通路	北山郡御油町町下今井字2509-1	3,500.00	敷設路	縄文・平安・中世・近世	土地区画整理	H13.12.19~H13.12.19



- 路線バスのご利用  
甲府一右左口(中道橋経由) 考古博物館で下車
- 高速バスのご利用(2時間)  
新宿西口……甲府南インター下車・徒歩10分

## 年 報 18

印刷日 平成14年11月15日

発行日 平成14年11月20日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター  
山梨県東八代郡中道町下曾根 923  
TEL 055-266-3881・055-266-3016  
FAX 055-266-3882

印刷所 株式会社 内田印刷所  
山梨県甲府市中央 2-10-18  
TEL 055-233-0188

